



# 和歌山大学岸和田サテライト地域連携事業報告 (2012 年度)





---

## はじめに

和歌山大学は、大阪府岸和田市との地域連携推進協定にもとづき、2006年4月、岸和田市立浪切ホールに岸和田サテライトを開設しました。和歌山大学の学部教養科目および大学院科目を開講し、地域のみなさんに高等教育の機会を提供しているほか、地域課題の解決に向けた各種の地域連携事業や住民のさまざまな学習ニーズに対応した生涯学習事業等を実施しています。

岸和田サテライトの基本事業は以下のとおりです。

1. 地域住民の多様な教育ニーズに対応した特色ある高等教育の実施（高等教育部門）
2. 地域研究の推進及び地域の課題をふまえた生涯学習の機会提供（地域研究・生涯学習部門）
3. 地域自治体、企業等と連携した地域活性化に資する事業の実施（地域連携・産官学連携部門）
4. 高校を含めた地域に対する大学情報の発信（高校連携部門）

これらは、岸和田サテライトが主体となって実施する事業活動と、本学の各担当部門が岸和田サテライトおよび南大阪地域で事業を実施する際の調整・協力等の諸活動からなっています。

本事業報告においては、前者の活動に重点をおきつつ、岸和田・南大阪地域における本学の教育研究および地域連携の活動概要を紹介しています。

2013年 6月

---

和歌山大学岸和田サテライト地域連携事業報告（2012年度）

目 次

|                      |    |
|----------------------|----|
| I 事業4部門              | 3  |
| 1. 高等教育部門            | 3  |
| 2. 地域研究・生涯学習部門       | 8  |
| 3. 地域連携・産官学連携部門      | 16 |
| 4. 高校連携部門            | 23 |
| II 「岸和田サテライト友の会」活動支援 | 24 |
| III 大学同窓会との協力        | 26 |
| IV サテライトオフィス運営       | 27 |
| V 地域連携事業の推進体制        | 33 |
| VI 地域連携コーディネーター活動記録  | 35 |
| 資料編                  | 39 |



## I 事業4部門

### 1. 高等教育部門 ―専門性と地域性を備えた大人の学び―

岸和田サテライトでは、和歌山大学が有する高等教育機能を活用して、地域活性化や社会人のスキルアップのニーズに即した学部開放授業（教養科目）と大学院授業を平日夜間と土曜日に岸和田市立浪切ホールで開講しています。

2012年度は、大学院授業8科目と学部開放授業3科目を開講し、受講者はのべ116名でした。

#### (1) 学部開放授業（教養科目）

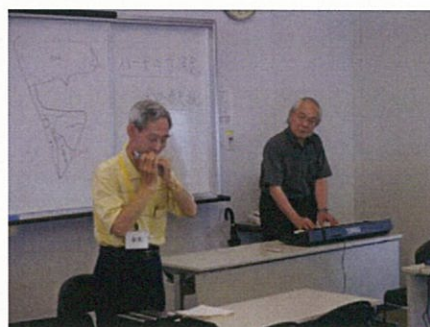
| 学期 | 科目名                            | 学部 | 担当教員     | 受講者数         |
|----|--------------------------------|----|----------|--------------|
| 前期 | 日本史の深層<br>―秀吉 vs 紀州惣国―         | 教育 | 海津 一朗 教授 | 16名<br>(4名)  |
|    | 世界の音楽 ―音楽からアブ<br>ローチする比較生活文化論― | 観光 | 米山 龍介 教授 | 18名<br>(10名) |

※受講者数欄のカッコ内は学部学生の数。

「日本史の深層」では、教室で古文書をひもとくだけでなく、貝塚市学芸員の協力による貝塚市内の根来出城跡のフィールドワークを行いました。

「世界の音楽」では、ゲスト講師による音楽と食卓の講義や受講生による楽器演奏なども取り入れた授業が行われました。

学部開放授業の受講者の中心は地域の社会人ですが、ときに学生も加わります。社会人と学部生が地域（サテライト）で一緒に学ぶ機会が増えつつあります。



■『フィールドミュージアム 中世日本の国境地帯』の制作

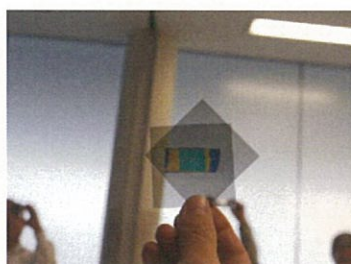
「日本史の深層」で行ったフィールドワークをもとに、岸和田・貝塚両市の教育委員会や岸和田天性寺の協力を得て、マップ教材を制作しました。歴史の学習やフィールドワークなどに活用されることを目的に、両市内の学校や図書館・博物館などに寄贈し、3月の第50回記念わだい浪切サロンでも配布しました。



| 学期 | 科目名                | 学部     | 担当教員                         | 受講者数        |
|----|--------------------|--------|------------------------------|-------------|
| 後期 | 身の回りのメカトロニクス機器のしくみ | システム工学 | 八木栄一、安田一則、小川原光一、松井徹、丸典明、村田頼信 | 13名<br>(1名) |

※受講者数欄のカッコ内は学部学生の数。

「身の回りのメカトロニクス機器のしくみ」では、簡単な科学実験を取り入れたり、PCの分解を行ったりもしました。受講生お手製の簡易ロボットを披露してもらい、担当教員が解説するという授業もありました。



## (2) 大学院経済学研究科授業

| 学期 | 科目名                          | 担当教員      | 受講者数         |
|----|------------------------------|-----------|--------------|
| 前期 | 国際租税法特論                      | 袴田 裕二 教授  | 11名<br>(10名) |
|    | 租税法特論                        | 片山 直子 准教授 | 3名<br>(1名)   |
|    | 会社法特論                        | 清弘 正子 准教授 | 4名<br>(3名)   |
|    | 現代社会と民事紛争 一山崎豊子原作の『白い巨塔』を中心に | 吉田 雅章 准教授 | 15名<br>(8名)  |

※受講者数欄のカッコ内は大学院生（岸和田・栄谷）の数。

大学院授業では、社会人科目等履修生と大学院生と一緒に専門科目を学んでいます。仕事をもつ社会人の大学院生にとっては、平日夜間や土曜日に岸和田サテライトで開講される専門科目の授業は大切な学習の機会となっています。社会人科目等履修生の受講が多かった「現代社会と民事紛争」では、映像教材を使ったわかりやすい講義が好評でした。





| 学期 | 科目名                           | 担当教員        | 受講者数         |
|----|-------------------------------|-------------|--------------|
| 後期 | 法人課税論                         | 森江由美子 非常勤講師 | 4名<br>(4名)   |
|    | 連結会計特論                        | 山田 恵一 准教授   | 12名<br>(11名) |
|    | 公共経営論 ―パブリックセクターの変革をどう進めるか    | 江口 雅祥 非常勤講師 | 13名<br>(4名)  |
|    | 現代マーケティング論 ―売れる仕掛けを考えるマーケティング | 柳 到亨 准教授    | 7名<br>(4名)   |

※受講者数欄のカッコ内は大学院生（岸和田・栄谷）の数。

「公共経営論」については、7月の岸和田サテライト友の会夏季講演会のプレ講義（p.24 参照）に参加した方をはじめ、自治体職員の履修がこれまでより多くありました。

「現代マーケティング論」では、マーケティングの視点から履修生それぞれの仕事について考えることができた点が好評でした。



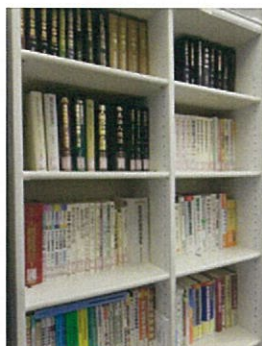
(3) 大学院経済学研究科修士課程租税法研究（大学院ゼミおよび修士論文指導）

| 学期 | 科目名           | 担当教員     | 受講者数 |
|----|---------------|----------|------|
| 通年 | 専門研究Ⅱ 及び 修士論文 | 袴田 裕二 教授 | 8名   |

2012年度、税理士を目指す8名の院生が岸和田サテライトで研究指導を受け、うち7名が修士論文を執筆して修士課程を修了しました。



■サテライト蔵書



授業のテキストをはじめ、租税法院生の研究に必要な専門書や学部授業の参考文献、地域と大学の連携に関する図書を中心に選書・購入し、蔵書の充実に努めました。

2012年度は、購入図書45冊（附属図書館購入27冊、サテライト購入18冊）、その他に各学部の定期刊行物の受入れ、本学教員の抜き刷り論文、他大学の報告書、自治体・教育委員会などの刊行物、大学院修了生からの専門書の奇贈が多数ありました。

■サテライト自習室

大学院生、科目等履修生を中心に、2012年4月～2013年3月に217件の利用がありました(前年度322件)。大学院生の論文執筆や授業の予習、文献検索のために自習室およびPC等が有効に活用されました。



2. 地域研究・生涯学習部門 ―住民自治のまちづくりと人材育成のために―

2-1 わだい浪切サロン

毎月第3水曜日の夜（2月と8月を除く）、年間 10 回の“mini 和歌山大学”を開催しています。開始から5年を経て、「わだい浪切サロン」は地域への本学の教育・研究活動のPRの場としての役割を十分に果たすとともに、住民の多様な関心に応える学習・交流の機会として定着してきました。

| 回  | 月日    | 内 容   | 話題提供者（所属）                    | 参加数                           |
|----|-------|---|------------------------------|-------------------------------|
| 41 | 4.18  | 農作業の負担低減！和歌山大学の「パワーアシストスーツ」                               | 八木 栄一 佐藤 元伸<br>（システム工学部）     | 43                            |
| 42 | 5.16  | スマートフォンで変わる！生活の情報化<br>―友達づくりから非常時の安否確認まで―                 | 塚田 晃司<br>（システム工学部）           | 72                            |
| 43 | 6.20  | 変容するアジアの大都市 ―都市化による<br>景観変化は社会に何をもたらすか―                   | 原 祐二<br>（システム工学部）            | 38                            |
| 44 | 7.18  | 名物で町おこし！ ―和歌山ラーメンブーム<br>をつくれた“伝わる情報”とは―                   | 床井 浩平<br>（システム工学部）           | 39                            |
| 45 | 9.19  | 海を渡った先人達 ―和歌山県を中心として、<br>移民・移住の軌跡を迎える―                    | 東 悦子（観光学部）                   | 57                            |
| 46 | 10.17 | 特別支援教育の「特別」が意味することは？<br>―「当たり前のこと（学習権保護）」<br>をめざす特別支援教育―  | 山崎 由可里（教育学部）                 | 51                            |
| 47 | 11.21 | 「わたし」とは何か？<br>―原因と結果の網の目のなかの自由―                           | 小関 彩子（教育学部）                  | 57                            |
| 48 | 12.19 | ニッポンのものづくりと中小機械工業<br>―都市と田舎と岸和田と―                         | 藤田 和史（経済学部）                  | 30                            |
| 49 | 1.16  | 社会保障と税の一体改革 ―何が決まったのか、<br>これから何を決めるのか―                    | 中島 正博（経済学部）                  | 43                            |
| 50 | 3.9   | ①天文あそび<br>―夜空を楽しむコツ教えます―<br>②天下統一<br>―1585年根来・雑賀惣国 vs 秀吉― | ①富田 晃彦（教育学部）<br>②海津 一朗（教育学部） | 140<br>① 100<br>② 122<br>①②82 |

年間参加者合計 570名

---

## 「わだい浪切サロン」参加者アンケート（感想）から

### ◇農作業の負担低減！和歌山大学の「パワーアシストスーツ」



農業に力を入れておられる和歌山県ならではの研究だと思いました。重労働、高齢化に対応する話をうかがえて良かったです。

（40代・男性）

少子高齢化、農業の効率化のために開発された着眼点が素晴らしいと思いました。今後は維持費の軽減そしてスーツ自体の軽減化に向け研究を進めていただければ市場性はかなりあると思います。（40代・男性）

### ◇スマートフォンで変わる！生活の情報化 —友達づくりから非常時の安否確認まで—

スマートフォンのことや、実際の災害時にどのように活用できるのか等、具体的にとてもわかりやすく説明して頂けてよくわかりました。（50代・女性）

まだスマートフォンを利用したことはありませんが、魅力ある製品であることがわかりました。ただ、改良の余地が残されていることもわかり、将来の可能性を楽しみにしたいと思います。（50代・男性）

### ◇変容するアジアの大都市 —都市化による景観変化は社会に何をもたらすか—

都市開発というものはどこの国も頭を悩ませながら取り組んできたのだと気づかせていただきました。環境との適合や、経済効果などの課題にその国その国の知恵をしぼりながら、生き生きと発展を願い取り組んでいるのだと考えました。（40代・男性）

### ◇名物で町おこし！ —和歌山ラーメンブームをつくった“伝わる情報”とは—

ラーメンを素材に情報とは何かというコミュニケーション論を楽しく学ばせていただきました。このわずか20年間のインターネット革命によって社会全体の大きな変化をもたらしたことを改めて感じました。（40代・男性）





◇海を渡った先人達 —和歌山県を中心として、移民・移住の軌跡を辿る—



先人の方が“開拓”のため海を渡った精神に感動しました。昔、鳥羽で見た“ブラジル丸”を思い出しました。ここから学ぶべきものがたくさんあると思います。海外で日本文化が生きていることにも感動しました。(40代・男性)

◇特別支援教育の「特別」が意味することは？ —「当たり前のこと」をめざす特別支援教育—

日々の忙しさで、学生の時に思い描いていた“当たり前のこと”をめざす大切さを忘れかけていたなあと感じました。先生のお話を聞いて再び思い出すことが出来ました。明日からまた初めの気持ちを思い出しながら仕事をしたいと思います。(20代・女性)

◇「わたし」とは何か？ —原因と結果の網の目のなかの自由—

思った以上に聴衆が集まり、皆様が求めていたもののように思います。哲学の講義をまた浪切サロンや学部開放授業にしてもよいのではないかなと思いました。こういうテーマこそ大学が取り組むべきだと思います。(40代・男性)

◇ニッポンのものづくりと中小機械工業—都市と田舎と岸和田と—

中小機械工業という一見マイナーだが、日本工業を下支えする重要なファクターについて歴史発展的背景を聴講できて大変興味深かった。(40代・男性)

ものづくり日本の技能と技術が中小零細企業の中にまだあることを聞き、期待していきたいと思いました。(60代・女性)

◇社会保障と税の一体改革 —何が決まったのか、これから何を決めるのか—

同じ先生でシリーズの企画にしてもらえたら必ず参加します。今回のような話をマスコミでもしてもらって、国民全体で考えていけたらと思います。(50代・女性)  
制度改革は結局、大企業を優遇し、市民に負担増を押しつけるものになってしまうことに怒りを感じます。(50代・男性)





## ■第 50 回記念スペシャル

2013 年 3 月、第 50 回を記念してスペシャル版浪切サロンを開催しました。土曜午後の開催でもあったため親子連れの参加者もみられました。

学部開放授業「日本史の深層」で行ったフィールドワークの紹介や貝塚市立善兵衛ランドに提供していただいた月齢早見盤を紹介するなど、これまでにはなかった趣向を取り入れました。また茶話会（懇親会）の時間を設け、岸和田サテライト友の会会員のご協力により抹茶をふるまう企画も行いました。

初めて浪切サロンに参加された方も多く、和歌山大学と岸和田サテライトをより多くの方々に知らせる機会になりました。

### ◇天文あそび ―夜空を楽しむコツ教えます―

天文学は奥が深いですね。パソコンソフトをダウンロードして楽しみたいと思います。(50代・男性)  
星についてあらためて興味がわきました。今夜も空を見上げてみたいと思います。(40代・男性)

### ◇天下統一 ―1585 年根来・雑賀惣国 vs 秀吉―

雑賀・根来惣国と秀吉の戦いをリアルに理解できた。一度、地図を手にしてみて回ろうと思う。(50代・男性)

なぜ貝塚が戦場となったのかを教えてください嬉しく思いました。DVD 映像は学習教材として素敵な資料になると思いますので、ぜひ編集されて教育委員会等に寄附していただきたく思います。(60代・男)



## ■リーフレット「知を活かした地域の創造 わだい浪切サロン 5 年のあゆみ」

上記の第 50 回記念スペシャルの開催にあわせて、サテライト事業の紹介と、これまでのわだい浪切サロン 50 回分のテーマ・話題提供者などを一覧できるリーフレットを作成・配布しました。



## 2-2 地域課題研究型プログラム

### 「超高齢・長寿社会の地域社会を考えるセミナー及びヒアリング事業」

岸和田サテライト 主催

高等教育分野の事業（学部開放授業、大学院授業）だけでは必ずしも対応が十分にはできない地域課題の解決を目指し、住民参加型事業の模索を目的として、2012年度は「高齢化する地域社会」をテーマに地域課題研究型プログラムを実施しました。

これからの高齢社会を支える地域のあり方と、その担い手および将来の当事者となるミドル世代の生き方についての問題提起をし、課題を共有する講演会（セミナー）を開催しました。また、市内各団体へのヒアリングを実施し、高齢社会における地域課題の把握に努めました。

#### ■セミナーの開催

テーマ 住み慣れた地域で暮らし続けるために

～ミドル期からのライフデザインセミナー～

日時 2012年12月23日（土） 13時半～15時半

場所 岸和田市立浪切ホール 特別会議室

共催 岸和田市

内容 開会あいさつ 山本 健慈（和歌山大学長）

講演「超高齢・長寿社会を生きるということ」

前田 展弘 氏（ニッセイ基礎研究所准主任研究員）

参加者による意見交換、講師との質疑応答

閉会あいさつ 西川 照彦（岸和田市企画調整部長）

参加 80名



#### ■ヒアリングの実施

日時 2013年1月11日、2月1日、21日、22日

訪問先 岸和田健老大学、岸和田市社会福祉協議会、岸和田市シルバー人材センター、岸和田市立女性センター、JAいずみの



## 2-3 第11回 地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー

地域連携・生涯学習センター 主催

和歌山大学地域連携・生涯学習センターは、地域発展のための主体的力量形成に貢献する学習内容と実施のあり方を探求する「地域学習発展プログラムの開発と実施に関するセミナー」（岸和田会場）を毎年開催しています。

2012年度は、「地域づくりと生涯学習」をテーマとして、基調講演のほか、ボランティア活動をする市民や社会教育を担当する自治体職員などのリレートークが行われました。

テーマ 地域づくりと生涯学習 ～地域課題の解決にむきあう自治体と大学の役割～

日時 2012年2月16日（土） 13時～16時半

場所 岸和田市立浪切ホール 特別会議室

共催 岸和田市、岸和田市教育委員会

後援 岸和田サテライト友の会

内容 開会あいさつ 平田 健正（和歌山大学理事、地域連携・生涯学習センター長）

基調講演 「地域創造と生涯学習」 上野 景三 氏（佐賀大学教授）

リレートーク 大井 順子 氏（ボランティアグループ「サン・アーチ」）

内田 光俊 氏（岡山市教育委員会）

村田 和子（和歌山大学地域連携・生涯学習センター准教授）

グループ討議、全体議論、まとめ

閉会あいさつ 山本 健慈（和歌山大学長）

参加 68名



## 2-4 地域研究への支援

### (1) 特別支援教育コーディネーターフォーラム

教育学部特別支援教育学教室（代表 小野 次朗 教授）

本事業は、本学の「『地域を支え、地域に支えられる大学』づくり研究プロジェクト採択事業『特別支援教育分野における大学の地域支援に関する実証的研究』（平成 23・24 年度）の一環として実施しました。岸和田会場（浪切ホール 研修室）を含む本学および和歌山県内の計 5 つの会場をテレビ会議システムで結び、講演・事例発表・意見交換を行う内容で、神谷地域連携コーディネーターが共同研究者として参加しました（詳細は、特別支援教育学教室発行の報告書を参照）。

岸和田会場では、小中学校教員を含むのべ 77 名の参加がありました（前年度は 4 回開催、のべ 44 名参加）。特別支援教育について学びあう貴重な機会として定着しつつあります。

| 開催日   | 講演テーマ・担当教員  | 参加者数 |
|-------|---|------|
| 6.27  | 39 回「地域で子どもを育てる『児童発達支援及び放課後等デイサービス（児童デイサービス）』の実践―発達障害児の支援を視野に入れて」（古井克憲 准教授）ほか | 10 名 |
| 7.25  | 40 回「児童福祉施設の子どもたちの学習と生活の支援」（江田裕介 教授）ほか  | 10 名 |
| 8.23  | 41 回「発達障害のある子どもたちから学ぶこと―自尊感情を育むために―」（小野次朗 教授）<br>（和歌山県教育委員会「特別支援教育啓発セミナー」と共催） | 21 名 |
| 10.24 | 42 回「発達障害のある青年の心理社会的支援Ⅱ」（武田鉄郎 教授）ほか   | 15 名 |
| 11.28 | 43 回「インクルーシブ教育（誰も排除しない教育）とはなにか」（山崎由可里 教授）ほか                                   | 26 名 |



---

## (2)「農業・農村『複合化』プロジェクト」

藤田 武弘 観光学部教授

大浦 由美 観光学部准教授

本事業は、本学「和歌山大学型グリーンイノベーション創造プログラム事業」として実施されました。

観光学部地域再生学科の教員と学生が、JA いずみのとの協力によって岸和田市内の農産物直売所「愛彩ランド」を利用する消費者および出荷者の意識調査を行いました。調査結果は、「愛彩ランド」出荷者大会（7/11）やJA いずみの本店での報告会（11/29）で発表されました。第三者的立場である大学の調査に基づく提言は、「愛彩ランド」の運営や地域農業のあり方を考えていくうえで貴重な助言として受け止められています。

調査報告は、観光学部紀要『観光学』（第6号、第8号）に掲載されました。





---

### 3. 地域連携・産官学連携部門 ―大学と地域をむすぶ新たなとりくみ―

#### (1) 防災にかんする講演・支援活動など

防災研究教育センター教員

岸和田市・教育委員会および地域団体などからの防災活動にかかわる相談・依頼を受けて、岸和田サテライトでは本学防災研究教育センター（教員）の講演会講師などのコーディネートや現場支援を行いました。

前年度の「和歌山大学ラボツアー from 岸和田―地域防災力向上に向けて何をすべきか」などをきっかけに、その後、大学と地域とのあいだに地域防災力の強化に向けた関係づくりが進みつつあります。防災研究教育センターの今西 武 客員教授がプロデュースした「3.11 メッセージ」の上映希望も行政や地域から寄せられています。

2012 年度は、以下のような防災分野におけるとりくみがありました。

#### ※「3.11 メッセージ」

毎日新聞社の協力により東日本大震災の報道写真を活用して制作された防災啓発活動のための DVD 映像。

#### ◇岸和田市教育委員会学校教育課防災担当者講習会

2012 年 10 月 2 日（岸和田市メディカルセンター）

今西 武 防災研究教育センター客員教授が、各学校の防災担当の教諭を対象に、「3.11 メッセージ」の上映を中心に講演しました。

#### ◇浪切ホール避難訓練 危機管理講習会

2012 年 10 月 15 日（浪切ホール）

照本 清峰 防災研究教育センター特任准教授が、浪切ホール職員を対象に、自治体や公共施設における危機管理・対応のあり方について講演しました。



---

◇岸和田市立浜小学校 避難訓練（助言）

2013年1月17日（岸和田市立浜小学校）

今西 武 客員教授が、市立浜小学校の避難訓練に先立って助言活動を行いました。

◇岸和田工業センター協同組合防災講習会

2013年1月22日（岸和田工業センター協同組合会館）

此松 昌彦 防災研究教育センター長／教育学部教授が、岸和田工業センター各社の従業員を対象に、災害時の対応と事業所の防災について講演を行いました。



◇岸和田市生涯学習課・岸和田市社会福祉協議会「災害時市民助け合いフォーラム」

2013年2月2日（岸和田市立福祉総合センター）

今西 武 防災研究教育センター客員教授が、地域住民やボランティア活動参加者、公民館利用者などを対象に、「3.11 メッセージ」の上映を中心に講演しました。



◇岸和田市社会福祉協議会 防災教育ボランティア講座

2013年2月17日（岸和田市立福祉総合センター）

今西 武 防災研究教育センター客員教授が、防災教育にかかわるボランティア人材の養成を目的とする講座の講師を務めました。災害時に自宅や避難所で役立つ簡易トイレづくりの実習やペール缶コンロの実演などを行いました。





---

(2) 経済学部集中授業「地域調査研究」

藤田 和史 経済学部講師

2012年8月22日～25日、岸和田市周辺のものづくり企業をフィールドとして、経済学部集中授業「地域調査研究」(担当 藤田講師)が実施されました。岸和田サテライトは、岸和田商工会議所や各協同組合事務局の協力を得て、訪問先のコーディネートと現場支援を行いました。

金属加工企業や食品加工企業など約10社の企業を訪問し、工場見学・ヒアリング調査を行いました。企業訪問には、岸和田サテライト友の会会員も参加しました。

調査結果の一部は、2012年12月のわだい浪切サロンにおいて藤田講師が報告しました。

- 22日 大阪鉄工金属団地協同組合、丸昌工業株式会社、北海鉄工所株式会社
- 23日 住吉熱錬工業株式会社、株式会社田中鋳造所、真和テック
- 24日 岸和田工業センター協同組合、株式会社山田工作所、有限会社平成金属、株式会社野村製作所
- 25日 JAいずみの「愛彩ランド」、南宗味噌株式会社(見学、味噌手作り体験)、日本酪農協同株式会社



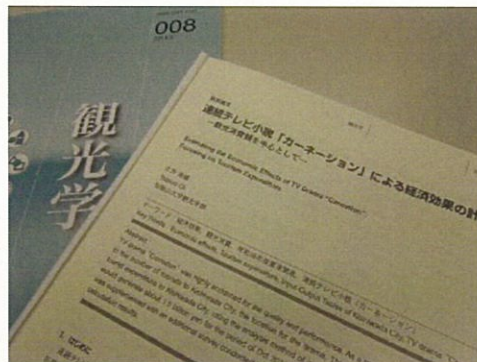


---

### (3) NHK連続ドラマ「カーネーション」およびだんじり祭の経済波及効果調査

大井 達雄 観光学部准教授  
岸和田市 観光課

大井准教授が岸和田市の依頼により前年度に調査したドラマ「カーネーション」の経済波及効果の検証を目的に、2012年9月15日・16日、「岸和田だんじり祭来訪者調査」を実施しました。岸和田サテライトは、岸和田市と協力して調査の準備と実施を支援しました。南海岸和田駅前、浪切ホール祭の広場、だんじり会館、まちづくりの館、ラチオきしわだにご協力いただきアンケート用紙の配布・回収、聞き取りを行うとともに、岸和田市ホームページ上のWebアンケートを実施しました。調査の結果は、岸和田市のホームページで単純集計を公開し、一連の調査をまとめた研究論文が観光学部紀要『観光』（第8号）に掲載されました。



---

(4)「歴史的まちなみを活用したきしわだ紬まちづくりプロジェクト」(燈の編) 参加協力

川角 典弘 システム工学部講師

高砂 正弘 システム工学部教授

研究室・ゼミの院生・学生

岸和田市市制 90 周年事業プロジェクトへの協力依頼（岸和田市市街地整備課）を受けて、システム工学部の川角講師と高砂教授および研究室の大学院生・学生が参画しました。

岸和田城周辺の燈イベント演出の一環として風船照明をデザインし、11月23日、現場の下見と準備、24日、照明器具の組立て作業、25日、堀への照明器具の設置・実演を行いました。25日当日、夕暮れとともに浮かび上がったLEDライトの青白いあかりは注目を集め、岸和田城を訪れた多くの人が幻想的な風景を写真に収めていました。

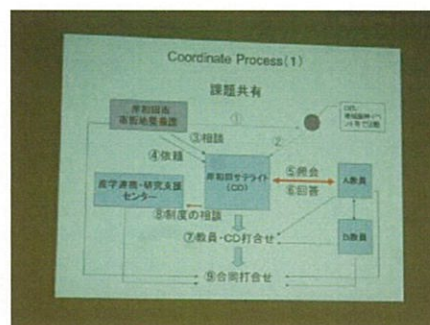




## ■産学連携学会での事例発表

本件は、岸和田市からの依頼をもとに、岸和田サテライトが産学連携・研究支援センター専任教員の助言のもとにコーディネートを行い、本学の共同研究の制度を活用して実現しました。

2012年12月7日、産学連携学会関西・中国四国支部 研究・事例発表会において、「サテライト事業を契機とした共同研究事例」として、地域連携コーディネーターが本件の実施経緯や成果について発表しました。



## ■DVD 映像の制作

本プロジェクト当日のビデオ映像をもとにした DVD が岸和田サテライト友の会会員により制作されました。DVD は記録資料として、岸和田市市街地整備課、システム工学部教員、岸和田サテライトに寄贈していただきました。



---

(5) 和歌山大学教員免許状更新講習（岸和田会場）

教務課 教員免許状更新講習事務局

2012年8月4日・5日、9日・10日・11日、岸和田市立産業高等学校を会場に実施しました。

教育学部の教員17名が13講座を担当し、地域の学校・幼稚園教員などのべ487名が受講しました。

---

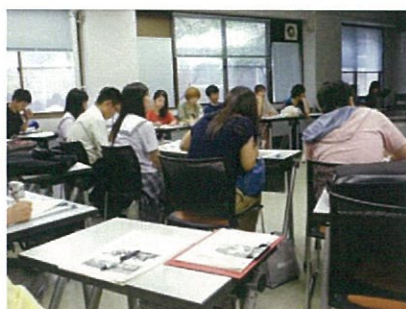
#### 4. 高校連携部門

##### (1) 岸和田市立産業高等学校からの授業見学・懇談会

経済学部

2012年7月13日、岸和田市立産業高等学校の生徒が和歌山大学経済学部(栄谷キャンパス)を訪問しました。

大講義室での授業やゼミの様子を見学した後、経済学部教職員や産業高校出身の学生らとの懇談を行いました。



##### (2) 和歌山大学説明会 in 岸和田

入試課 各学部

2012年6月17日、岸和田市立浪切ホールにて「和歌山大学説明会 in 岸和田」を開催し、地域の高校生、保護者など多数の参加がありました。

岸和田サテライトでは広報など地域向けの情報発信に協力しました。



---

## Ⅱ 「岸和田サテライト友の会」活動支援

岸和田サテライト友の会は、受講生の同窓会的組織として、これまで年2回の講演会を開催してきました。

2012年度も下記のとおり夏季および冬季の講演会を実施し、岸和田サテライトが事務局として活動を支援しました。

### (1) 2012年度岸和田サテライト友の会総会および夏季講演会

総会では、今後の活動の活性化を目的として役員の補充を行いました。

夏季講演会は、後期開講授業のプレ講義を兼ねるかたちで講演を開催しました。

日 時 2012年7月21日(土) 15時～18時

場 所 岸和田市立浪切ホール 研修室1、研修室2

内 容 総会(会計報告、役員改選、会員懇談)

夏季講演会(後期開講授業プレ講義)

「公共部門の経営(パブリック・マネジメント)について考える」

江口 雅祥 氏(経済学部非常勤講師)

後期サテライト開講授業説明会

参 加 41名(友の会会員、一般参加者)





---

## (2) 2012 年度冬季講演会

冬季講演会は、「東日本大震災を教訓に地域防災を考える」をテーマとする講演会を開催しました。市役所や社会福祉協議会からも地域防災活動について報告していただき、参加者と意見交換を行うといった新たなとりくみとなりました。

日 時 2013 年 1 月 19 日 (土) 14 時～16 時半

場 所 岸和田市立浪切ホール 研修室 1

内 容 冬季講演会

開会あいさつ 大西 敏夫 (岸和田サテライト長、経済学部教授)

講演「東日本大震災の経験と教訓」 吉川 裕子 氏 (福島県浪江町出身)

報告 渋谷 泰隆 氏 (岸和田市危機管理課)

三林 達哉 氏 (岸和田市社会福祉協議会)

質疑応答、意見交換

閉会あいさつ 平田 健正 (理事・副学長、地域創造支援機構長)

次年度前期開講授業説明会

参 加 35 名 (友の会会員、一般参加者)



---

### Ⅲ 大学同窓会との協力

#### (1) 柑芦会<sup>（さしあひ）</sup>大阪支部・岸和田サテライト共催セミナー

経済学部同窓会・柑芦会大阪支部との協同で、泉州地域の活性化を考えることを目的としたセミナーを企画・実施しました。

今回は、岸和田に近く、また和歌山の観光にも影響力をもつ新関西国際空港の経営をテーマとする講演会を開催しました。終了後の懇親会では、岸和田周辺に通勤・在住する同窓生の交流とともに、岸和田サテライトからの事業紹介を行いました。

- 日 時 2012年11月28日(水) 18時半～20時(懇親会 ～21時)  
場 所 岸和田市立浪切ホール 交流ホール  
内 容 開会あいさつ 青柳 明雄 氏(特任教授、柑芦会大阪支部支部長)  
講演「テイクオフした新関西国際空港株式会社の挑戦」  
住田 弘之 氏(新関西国際空港株式会社執行役員)  
懇親会(参加者自己紹介・メッセージなど)  
参 加 50名 (懇親会30名)



#### (2) 柑芦会大阪支部「レディースの会」参加

2013年3月2日、柑芦会大阪支部「レディースの会」に神谷地域連携コーディネーターがゲストスピーカーとして招かれ、岸和田サテライトのとりくみを紹介しました。



---

## IV サテライトオフィス運営

2012年度は、地域連携コーディネーター2名の常勤配置3年目、事務補佐員配置2年目を迎え、和歌山大学の南大阪地域における学外拠点・窓口としての機能が充実したことにより、連携事業の幅が広がりました。また、岸和田サテライト事業の認知度の向上とともに、諸団体とのさまざまな交流が生まれています。

前年度に引き続き、岸和田市『広報きしわだ』、岸和田商工会議所『きしわだ所報』、地域のミニコミ誌での事業案内を行いました。市域外への各種広報物の配布を拡大したことにより、堺・泉北から和歌山市までの住民の受講や浪切サロンへの参加が増加しました。

### (1) 広報活動の充実・拡大

#### ■ホームページのリニューアル

岸和田サテライトホームページをより見やすいものにリニューアルし、引き続き各種事業の開催案内や事業実施後の記録公開など、速やかな情報発信に努めました。

また、地域連携コーディネーターと事務補佐員によるブログ「岸和田サテライトの毎日」の更新頻度を上げ、サテライト事業や地域連携などの情報発信を積極的に行いました。

#### ■「岸和田サテライト通信」発行

サテライトの多方面にわたる事業を定期的に紹介するために、「岸和田サテライト通信」(vol.6-9)を発行しました。



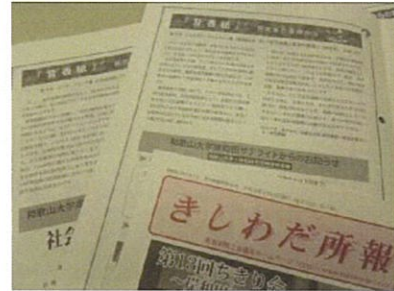
#### ■リーフレット「知を活かした地域の創造 わだい浪切サロン 5年のあゆみ」発行

わだい浪切サロンの第50回開催にあわせて、サテライト事業の紹介と過去の浪切サロン50回のテーマ等を一覧できるリーフレット「知を活かした地域の創造」を作成・配布しました。

(p.11 参照)

## ■岸和田商工会議所との連携

岸和田商工会議所の会報『きしわだ所報』にサテライト事業の案内を掲載していただくとともに、9月号から3月号まで、産学連携・研究支援センターの河崎 昌之准教授による産学連携をテーマにした書評を連載しました。



## ■浪切ホールとの連携

7月16日、岸和田市立浪切ホール10周年事業の「NAMIKIRI 夏フェス」に岸和田サテライトが出展しました。

これまでの地域向け開講科目を中心に事業を紹介展示し、来場者にサテライトへの要望などを尋ねるアンケートを実施しました。



浪切ホール友の会会員向け広報リーフレット「ナミトモ」に、わだい浪切サロンをはじめとするサテライト事業の案内が掲載されました。



## ■その他

本学広報室や経済学部同窓会・柑芦会大阪支部に随時、わだい浪切サロンやその他のサテライト事業について案内し、ホームページなどへの掲載を依頼しました。

友の会会員や、わだい浪切サロン参加者で事業案内を希望された方々には定期的にメールでの案内を配信しました。

---

## (2) 情報交換の機会拡大

12月より「岸和田市協働推進チーム会議」に地域連携コーディネーターが参加し、岸和田市自治振興課、政策企画課、生涯学習課、岸和田市社会福祉協議会・ボランティアセンターなどの職員との情報交換、地域における各種連携事業の調整や課題検討を定期的に行いました。

(写真は、ボランティアセンターでの情報交換)



## (3) 視察受け入れ

大学の地域拠点・サテライト事業の事例などが注目され、3件の視察訪問（信州大学、韓国東西大学校、韓国公州大学校）がありました。

岸和田サテライトの特徴、自治体との連携体制、本学との連絡体制、地域連携コーディネーターの勤務およびキャリアパスなどについて説明し、質問にお答えしました。





#### (4) 地域連携コーディネーターの研修機会への積極的参加

地域連携コーディネーターの能力向上および他大学の先進事例の情報収集などを目的として、学内外の研修機会に積極的に参加し情報交換に努めました。

##### ■産学連携学会第10回大会

6月14日・15日、高知市で開催された産学連携学会第10回大会に、地域連携コーディネーターが参加し、全国各地の大学や自治体でとりくまれている産学連携および地域連携の事例発表を視察しました。(資料編 「サテライト通信 vol.6」参照)

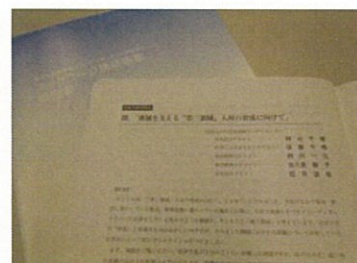


##### ■「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

(和歌山大学「地域と大学を繋ぐコーディネーターのためのネットワーク構築事業」)

7月5日・6日、大学の地域連携にかかわる業務を担当する教職員の情報交換を目的として、本学主催のセミナーを開催しました。地域連携コーディネーターは、主催者の一員として企画立案に携わり、当日の運営を担うとともに、本学のサテライト事業について分担して報告しました。

2013年3月、セミナーの内容を事業報告書としてまとめ、参加大学・教職員に送付しました。



---

## ■南大阪地域大学コンソーシアム設立 10 周年記念シンポジウム

8月9日、本学も加盟する南大阪地域大学コンソーシアムの設立 10 周年記念シンポジウムに地域連携コーディネーターが参加し、同コンソーシアムおよび他大学における地域貢献活動の事例にかんする情報収集を行いました。



## ■南大阪地域コンソーシアム「南大阪地域講座」

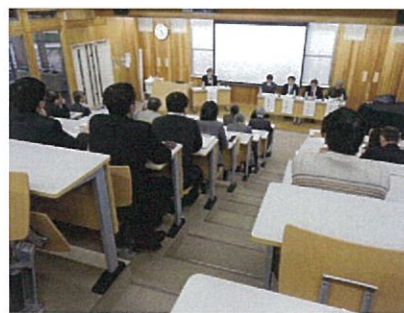
同コンソーシアムが主催する「南大阪地域講座」を地域連携コーディネーターが受講し、南大阪地域の産業について学習しました。

(7/26 講座 2「グローバル化とこれからの南大阪産業」、8/20 講座 3「南大阪の地場産業」)

## ■和歌山大学におけるシンポジウムなど

本学の研究・教育シーズの把握、今後の大学の発展に向けた課題の理解のために、地域連携コーディネーターが各種のシンポジウムなどに年間を通して積極的に参加しました。

- ・シンポジウム「地域創造への連携 2013」
- ・シンポジウム「新しい大学教育・大学院教育の創造」
- ・経済学部創立 90 周年記念行事（式典・講演会）
- ・観光学部「地域活性化システム論 2012」 など



---

(5) 地域からの問い合わせ・対応

2012年4月～2013年3月、電話、電子メール、訪問などによる241件の問い合わせがサテライトオフィスに寄せられました。(前年度は107件)

各問合せに対して、回答、資料送付、本学各担当部署への照会などを行い、速やかに対応しました。

- ・サテライト開講授業（募集要項、開講内容など）について 65件（43件）
- ・サテライト、地域連携・生涯学習センターの事業（わだい浪切サロン、地域発展学習セミナー等）について、業務時間について 40件（17件）
- ・本学の入試（大学案内、一般・推薦・社会人入試など）について 38件（32件）
- ・その他（教員との面談希望、本学の教育内容など） 98件（15件）

※（ ）内は前年度の件数



---

## V 地域連携事業の推進体制 一会議の開催記録一

### (1) 第15回 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会

6月15日、山本健慈和歌山大学長、野口聖岸和田市長をはじめとする会員の出席により地域連携推進協議会を開催しました。

役職名の変更に伴う同協議会規約一部改正、2011年度事業報告および2012年度事業計画案の承認、その他地域連携事業についての意見交換が行われました。

(岸和田市役所)



### (2) 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会企画運営委員会

地域連携推進協議会の下、連携事業の企画・運営・調整にあたる企画運営委員会を、2012年度は2回開催しました。

#### ■第1回 企画運営委員会

8月1日(水) (岸和田市役所)

#### ■第2回 企画運営委員会

11月13日(火) (和歌山大学)



---

### (3) 和歌山大学岸和田サテライト連携協議会

岸和田サテライトの活用促進を目的とする連携協議会が、市内の産業団体（JA いずみの、岸和田商工会議所、大阪鉄工金属団地協同組合）、岸和田市教育委員会、岸和田市企画調整部および和歌山大学の役職者を委員として組織されています。

6月28日、2012年度連携協議会が開催され、2011年度事業報告および2012年度事業計画の報告、会計監査報告、意見交換等が行われました。  
(岸和田市役所)



### (4) 岸和田サテライト調整会議

和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会 企画運営委員会の下、日常的な業務の調整を目的として、月例で調整会議を実施しています。

岸和田サテライト長、岸和田副サテライト長、地域連携コーディネーター、事務補佐員、岸和田市政策企画課担当者が出席する調整会議を月例で実施するとともに、コーディネーターと市担当者による臨時会議を必要に応じて開催しました。

(岸和田サテライトオフィス)



VI 地域連携コーディネーター活動記録 (場所の記載のないものは岸和田サテライト)

■2012年4月

- 02 岸和田サテライト友の会会長打合せ
- 04 臨時調整会議
- 05 大阪鉄工金属団地協同組合避難訓練取材
- 06 (仮称)コーディネーターネットワーク研究協議会WG(地域連携・生涯学習センター)
- 11 第15回和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会打合せ(和歌山大学)
- 16 第15回和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会(岸和田市役所)
- 18 第41回わだいな浪切サロン(浪切ホール)
- 19 岸和田市社会福祉協議会・岸和田市ボランティアセンター情報交換(福祉総合センター)
- 24 貝塚市郷土資料室訪問打合せ(貝塚市)
- 25 TKC利用説明会

■5月

- 02 (仮称)コーディネーターネットワーク研究協議会WG(地域連携・生涯学習センター)
- 08 次年度開講授業打合せ(和歌山大学)
- 12 地域連携・生涯学習センター主催土曜講座受講(地域連携・生涯学習センター)
- 16 第42回わだいな浪切サロン(浪切ホール)
- 19 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク(貝塚市内)
- 23 経済学部集中授業「地域調査研究」打合せ(岸和田商工会議所)
- 24 調整会議
- 26 岸和田サテライト友の会幹事会
- 29 次年度開講授業打合せ(和歌山大学)
- 29 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ(海津一朗教育学部教授、和歌山大学)

■6月

- 01 和歌山大学岸和田サテライト連携協議会(岸和田市役所)
- 05 産学連携・研究支援センター打合せ(和歌山大学)

- 07 「地域調査研究」打合せ(藤田和史経済学部講師)

- 13 「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」会議(地域連携・生涯学習センター)

- 14-15 産学連携学会第10回大会(高知県立県民文化ホールほか)

- 17 和歌山大学説明会in岸和田(浪切ホール)

- 19 次年度開講授業打合せ(和歌山大学)

- 19 相芦会大阪支部との共催事業相談(和歌山大学)

- 19 地域連携・生涯学習センター企画運営委員会陪席、地域創造支援機構長懇談会(和歌山大学)

- 20 第43回わだいな浪切サロン(浪切ホール)

- 22 「地域調査研究」打合せ(大阪鉄工金属団地協同組合会館)

- 23 岸和田サテライト友の会幹事会

- 27 「地域調査研究」打合せ(北海鉄工所、岸和田工業センター協同組合会館)

- 27 第39回特別支援教育コーディネーターフォーラム(浪切ホール)

- 29 調整会議

■7月

- 04 「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」準備(地域連携・生涯学習センター)

- 05-06 上記セミナー・情報交換会(地域連携・生涯学習センターほか)

- 06 韓国公州大学校視察対応

- 07 韓国東西大学校視察対応

- 11 JAいずみの「愛彩ランド」出荷者大会(マドカホール)

- 12 「地域調査研究」打合せ(大阪鉄工金属団地協同組合会館、岸和田工業センター協同組合会館、岸和田商工会議所)

- 13 岸和田市立産業高等学校生徒大学見学(和歌山大学経済学部)

- 16 「NAMIKIRI 夏フェス!」出展(浪切ホール)
- 18 「地域調査研究」打合せ(大阪鉄工金属団地協同組合会館、北海鉄工所)
- 18 第44回わだい浪切サロン(浪切ホール)
- 19 岸和田市立産業高校研究発表助言(大井達雄観光学部准教授に同行、産業高校)
- 19 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク映像撮影(海津一朗教育学部教授に同行、貝塚市南近義神社)、岸和田市郷土文化室相談調整会議
- 20 岸和田市年金者組合講演会(中村太和先生に同行、いよやかの郷)
- 20 地域連携コーディネーター会議(和歌山大学)
- 21 岸和田サテライト友の会総会・夏季講演会(浪切ホール)
- 21 後期開講科目説明会(浪切ホール)
- 24 岸和田サテライト長打合せ(和歌山大学)
- 25 岸和田サテライト・柑芦会大阪支部共催企画打合せ(青柳明雄特任教授、和歌山大学)
- 25 第40回特別支援教育コーディネーターフォーラム(浪切ホール)
- 26 南大阪地域大学コンソーシアム「南大阪地域講座2」(さかい新事業創造センター)
- 27 「地域調査研究」打合せ(南宗味噌)
- 27 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ(貝塚市郷土資料室)
- 28 学部開放授業「日本史の深層」刊行物における絵巻図面使用許諾(天性寺)
- 31 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ(岸和田市郷土文化室)
- 31 岸和田市社会福祉協議会、市自治振興課打合せ

#### ■8月

- 01 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会第1回企画運営委員会(岸和田市役所)
- 02 ウェストロー利用説明会
- 03 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ(海津一郎教育学部教授、和歌山大学)
- 09 南大阪地域大学コンソーシアム設立10周年記念シンポジウム「新しい大学像を探る」(大阪府立大学)
- 10 調整会議
- 20 南大阪地域大学コンソーシアム「南大阪地域講座3」(さかい新事業創造センター)

#### 22-25

- 「地域調査研究」実施(藤田和史経済学部講師、岸和田市内)
- 23 第41回特別支援教育コーディネーターフォーラム(浪切ホール)
- 27 岸和田市社会福祉協議会、市自治振興課、市生涯学習課打合せ(防災研究教育センター)
- 27 市環境保全課打合せ(市環境保全課)
- 31 『カーネーション』・だんじり祭の経済効果調査」打合せ(大井達雄観光学部准教授)
- 31 岸和田サテライト長打合せ(和歌山大学)

#### ■9月

- 03 臨時調整会議
- 03 大阪鉄工金属工業団地協同組合避難訓練取材
- 04 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ(海津一郎教育学部教授、和歌山大学)
- 06 岸和田サテライト・柑芦会大阪支部共催企画打合せ(青柳明雄特任教授、関西国際空港)
- 11 『カーネーション』・だんじり祭の経済効果調査」打合せ(大井達雄観光学部准教授)
- 11 地域課題研究型プログラム打合せ(地域連携・生涯学習センター)
- 15-16 『カーネーション』・だんじり祭の経済効果調査」実施(岸和田市内)
- 18 地域連携コーディネーター会議(産学連携・研究支援センター)
- 19 第45回わだい浪切サロン(浪切ホール)
- 21 調整会議
- 24 「大人大学(1日講座)」同行(和歌山大学、和歌山市内)
- 24 中島敦司システム工学部教授打合せ(市環境保全課、和歌山大学)
- 25 「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」報告書作成会議(和歌山大学)
- 25 地域連携・生涯学習センター企画運営委員会陪席(和歌山大学)
- 26 『カーネーション』・だんじり祭の経済効果調査」結果報告打合せ
- 28 岸和田市市街地整備課「きしわだ紬まちづくりプロジェクト」打合せ

■10月

- 02 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ
- 02 岸和田市教育委員会主催防災担当者講習会（岸和田メディカルセンター）
- 06 「『カーネーション』・だんじり祭の経済効果調査」打合せ（大井達雄観光学部准教授）
- 09 地域連携コーディネーター会議（産学連携・研究支援センター）
- 09 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ（和歌山大学）
- 10 臨時調整会議
- 10 共同研究「きしわだ紬まちづくりプロジェクト」教員打合せ（和歌山大学）
- 11 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ（貝塚市郷土資料室、岸和田市郷土文化室）
- 12 岸和田サテライト友の会幹事会
- 13 経済学部創立90周年記念式典参加（和歌山大学）
- 13 岸和田サテライト・相芦会大阪支部共催企画打合せ（青柳明雄特任教授、和歌山大学）
- 15 浪切ホール避難訓練取材
- 16 共同研究「きしわだ紬まちづくりプロジェクト」打合せ（岸和田市職員、教員、和歌山大学）
- 17 第46回わだいな浪切サロン（浪切ホール）
- 19 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ（海津一郎教育学部教授、まちかどサテライト）
- 24 第42回特別支援教育コーディネーターフォーラム（浪切ホール）
- 25 「地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー」打合せ（市立公民館）

■11月

- 01 韓国公州大学視察対応
- 02 調整会議
- 10 「朝ドラサミット in 岸和田」（浪切ホール）
- 13 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会第2回企画運営委員会（和歌山大学）
- 13 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク刊行物制作打合せ（海津一郎教育学部教授）
- 13 市危機管理課打合せ（防災研究教育センター）
- 16 岸和田サテライト長打合せ（和歌山大学）
- 16 岸和田サテライト友の会幹事会

- 20 「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」報告書作成会議（和歌山大学）
- 21 第47回わだいな浪切サロン（浪切ホール）
- 21 主催セミナー「超高齢・長寿社会を生きるということ」講師打合せ（東京都千代田区）
- 23-24 共同研究「きしわだ紬プロジェクト」実施協力、取材（岸和田市職員会館、岸和田城）
- 28 第43回特別支援教育コーディネーターフォーラム（浪切ホール）
- 28 岸和田サテライト・相芦会大阪支部共催セミナー（浪切ホール）
- 29 愛彩ランド消費者・出荷者意識調査結果報告会取材（JAいずみの）
- 30 平成25年度前期授業打合せ（和歌山大学）

■12月

- 01 観光学部主催公開講座「地域活性化システム論」受講（和歌山大学）
- 04 共同研究「きしわだ紬プロジェクト」事後報告（和歌山大学）
- 05 「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」報告書作成会議（和歌山大学）
- 06 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク映像制作打合せ（豊田充崇教育学部准教授、和歌山大学）
- 07 産学連携学会関西・中四国支部第4回研究・事例発表会（岡山市）
- 07 岸和田サテライト友の会幹事会
- 11 岸和田市協働推進チーム会議（市立公民館）
- 13 「産官学交流プラザきしわだ」担当者会議（岸和田商工会議所）
- 14 調整会議
- 19 第48回わだいな浪切サロン（浪切ホール）
- 20 大学・大学院教育改革シンポジウム（和歌山大学）
- 20 住田氏へ講演のお礼（青柳明雄特任教授、新関西国際空港）
- 21 岸和田市・商工会議所・池田泉州銀行産業振興連携協定締結1周年記念講演会（浪切ホール）
- 23 主催セミナー「超高齢・長寿社会を生きるということ」開催（浪切ホール）
- 27 平成25年度前期授業打合せ（和歌山大学）



■2013年1月

- 08 岸和田市危機管理課打合せ(防災研究教育センター)
- 09 岸和田サテライト友の会冬季講演会打合せ(堺市)
- 11 調整会議
- 11 地域課題研究型プログラム・ヒアリング(健老大学)
- 15 岸和田サテライト友の会冬季講演会打合せ(岸和田市社会福祉協議会)
- 16 第49回わだい浪切サロン(浪切ホール)
- 18 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク映像制作打合せ(海津一朗教育学部教授、豊田充崇教育学部准教授、和歌山大学)
- 19 岸和田サテライト友の会冬季講演会(浪切ホール)
- 22 岸和田市協働推進チーム会議(市立公民館)
- 22 岸和田工業センター防災講習会取材
- 26 岸和田市いきいき市民のつどい(産業会館)

■2月

- 01 調整会議
- 01 地域課題研究型プログラム・ヒアリング(岸和田市社会福祉協議会)
- 02 柑芦会大阪支部経済講演会(大阪市)
- 02 「市民助け合い防災フォーラム」(福祉総合センター)
- 04 次年度授業打合せ(渡部幹雄附属図書館長)
- 06 和歌山大学地域創造支援機構主催「地域創造への連携 2013」(フォルテワジマ)
- 08 臨時調整会議
- 12 大阪府立佐野工科高等学校取材(泉佐野市)
- 12 シンポジウム「新しい大学教育・大学院教育の創造」(和歌山大学)
- 16 「地域発展学習プログラムの実施と開発に関するセミナー」(浪切ホール)
- 17 岸和田市社会福祉協議会主催「防災教育ボランティア講座」(福祉総合センター)
- 19 「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」報告書発送(和歌山大学)
- 19 学部開放授業「日本史の深層」フィールドワーク映像制作打合せ(和歌山大学)
- 19 岸和田市協働推進チーム会議(市立公民館)
- 20 臨時調整会議
- 21 善兵衛ランド訪問・協力依頼(貝塚市)

- 21 地域課題研究型プログラム・ヒアリング(岸和田シルバー人材センター、女性センター)
- 22 地域課題研究型プログラム・ヒアリング調査(JA いずみの)
- 22 観光学部・農山村再生ゼミ論文報告会(和歌山大学)
- 22 わだい浪切サロン・リーフレット作成打合せ(和歌山大学)
- 23 地域連携・生涯学習センター研修員企画講座(地域連携・生涯学習センター)
- 27 臨時調整会議

■3月

- 01 調整会議
- 02 柑芦会大阪支部「レディースの会」(大阪市内)
- 04 わだい浪切サロン打合せ(富田晃彦教育学部教授、海津一朗教育学部教授、和歌山大学)
- 06 臨時調整会議
- 09 第50回記念わだい浪切サロンスペシャル(浪切ホール)
- 09 岸和田サテライト友の会幹事会
- 12 市立公民館ヒアリング(市立公民館)
- 12 岸和田サテライト長打合せ(和歌山大学)
- 20 岸和田租税法専攻院生修了祝賀・懇親会(五風荘)
- 25 岸和田サテライト長打合せ(和歌山大学)
- 26 岸和田市協働推進チーム会議(市立公民館)
- 27 信州大学視察対応
- 27 次年度授業打合せ(きしわだ自然資料館)
- 27 「土曜楽交」報告会取材(地域連携・生涯学習センター)
- 28 地域連携コーディネーター会議(和歌山大学)
- 29 次年度岸和田サテライト体制打合せ

## 資料編

- A-1 岸和田サテライト開講授業 科目名・受講生数一覧
- A-2 岸和田サテライト受講生のべ人数の推移
- A-3 岸和田サテライト開講授業 受講生数および岸和田市・在勤者の推移
- A-4 2012年度 受講生アンケート結果
  
- B-1 わだい浪切サロン参加者数と岸和田市民の割合（回別）
- B-2 わだい浪切サロン参加者数と岸和田市民の割合（年度別）
- B-3 わだい浪切サロン参加者における男女比および岸和田市民の割合（50回計）
  
- C-1 「岸和田サテライト通信」vol. 6～vol. 9
- C-2 「わだい浪切サロン」ちらし 第41回～第50回
- C-3 受講生募集、その他ちらし
  
- D-1 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会 名簿
- D-2 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会企画運営委員会 名簿
- D-2 和歌山大学岸和田サテライト連携協議会 名簿
- D-4 和歌山大学岸和田サテライト教職員 名簿

A-1 岸和田サテライト開講授業 科目名・受講生数一覧 (2006年度～2012年度)

| 年度        | 学期               | 担当            | 科目名                   | 提供学部            | 履修生     | 正規生    | 合計      | 年度合計 |
|-----------|------------------|---------------|-----------------------|-----------------|---------|--------|---------|------|
| 2006      | 前期               | 経済            | 地域経済論                 | 経済学部            | 12      | 2      | 14      | 70   |
|           |                  |               | 地域政策                  | 経済学部            | 10      | 1      | 11      |      |
|           |                  | 教育            | 初等教育特論A               | 教育学部            | 6       | 1      | 7       |      |
|           | 後期               | 経済            | 経営情報処理                | 経済学部            | 7       | 1      | 8       |      |
|           |                  |               | 地域情報ネットワーク            | システム工学部         | 6       | 1      | 7       |      |
|           |                  |               | 企業経営論                 | 経済学部            | 15      | 2      | 17      |      |
| 教育        | 初等教育特論B          | 教育学部          | 6                     | 0               | 6       |        |         |      |
| 2007      | 前期               | 経済            | 中心市街地活性化論             | 経済学部            | 6       | 3      | 9       | 84   |
|           |                  |               | 現代日本経済論               | 経済学部            | 14      | 3      | 17      |      |
|           |                  |               | 公共経営論                 | 経済学部            | 9       | 1      | 10      |      |
|           |                  | 教育            | 初等教育特論C               | 教育学部            | 4       | 0      | 4       |      |
|           | 後期               | 経済            | カントリーライフ学             | 経済学部            | 14      | 4      | 18      |      |
|           |                  |               | 地域情報ネットワーク<br>現代企業経営論 | システム工学部<br>経済学部 | 5<br>13 | 2<br>2 | 7<br>15 |      |
| 教育        | 学校リスクマネジメント特論A   | 教育学部          | 4                     | 0               | 4       |        |         |      |
| 2008      | 前期               | 経済            | 現代行政作用法               | 経済学部            | 7       | 5      | 12      | 92   |
|           |                  |               | 経営学特論                 | 経済学部            | 15      | 2      | 17      |      |
|           |                  | 教育            | 初等教育特論A               | 教育学部            | 3       | 4      | 7       |      |
|           | 学部               | 観光—さのつ、きよつ、あす | 観光学部                  | 5               | 5       | 10     |         |      |
|           | 後期               | 経済            | グローバル経済論              | 経済学部            | 9       | 5      | 14      |      |
|           |                  |               | 自然環境・環境保全研究           | システム工学部         | 4       | 0      | 4       |      |
|           |                  |               | 現代日本税制論               | 経済学部            | 3       | 3      | 6       |      |
| 観光まちづくり研究 |                  |               | 観光学部                  | 6               | 4       | 10     |         |      |
| 教育        | 初等教育特論B          | 教育学部          | 3                     | 3               | 6       |        |         |      |
| 学部        | 世紀初等における日本と英国の小説 | 経済学部          | 2                     | 4               | 6       |        |         |      |
| 2009      | 前期               | 経済            | 経営史特論                 | 経済学部            | 13      | 5      | 18      | 139  |
|           |                  |               | 地域産業クラスター論            | 経済学部            | 9       | 17     | 26      |      |
|           |                  |               | 現代日本地方財政論             | 経済学部            | 11      | 8      | 19      |      |
|           |                  |               | 現代の社会政策               | 経済学部            | 9       | 7      | 16      |      |
|           |                  | 教育            | 初等教育特論A               | 教育学部            | 2       | 1      | 3       |      |
|           | 後期               | 経済            | 原価計算論                 | 経済学部            | 5       | 1      | 6       |      |
|           |                  |               | 税法と税務行政               | 経済学部            | 12      | 4      | 16      |      |
|           |                  |               | 所得課税論                 | 経済学部            | 6       | 4      | 10      |      |
|           |                  |               | 生活環境計画論               | システム工学部         | 9       | 5      | 14      |      |
| 学部        | 岸和田藩の歴史          | 教育学部          | 7                     | 4               | 11      |        |         |      |



|      |           |                    |               |         |    |    |    |     |
|------|-----------|--------------------|---------------|---------|----|----|----|-----|
| 2010 | 前期        | 経済                 | 租税法総論         | 経済学部    | 7  | 16 | 23 | 208 |
|      |           |                    | 現代家族生活と民法     | 経済学部    | 12 | 19 | 31 |     |
|      |           |                    | 都市近郊農業論       | 経済学部    | 8  | 19 | 27 |     |
|      |           |                    | 環境・自然エネルギー革命  | 経済学部    | 6  | 8  | 14 |     |
|      |           | 教育                 | 初等教育特論A       | 教育学部    | 3  | 1  | 4  |     |
|      | 学部        | 地域とグローバル化          | 観光学部          | 4       | 0  | 4  |    |     |
|      | 後期        | 経済                 | 資産課税論         | 経済学部    | 6  | 19 | 25 |     |
|      |           |                    | 現代経営論         | 経済学部    | 10 | 14 | 24 |     |
|      |           |                    | 地方都市の地域づくり    | 経済学部    | 9  | 23 | 32 |     |
|      |           |                    | 地元学特論         | 経済学部    | 2  | 13 | 15 |     |
| 教育   |           | 初等教育特論B            | 教育学部          | 4       | 1  | 5  |    |     |
| 学部   | デザイン情報学入門 | システム工学部            | 3             | 1       | 4  |    |    |     |
| 2011 | 前期        | 経済                 | 租税争訟法         | 経済学部    | 1  | 14 | 15 | 166 |
|      |           |                    | 会社法特論         | 経済学部    | 2  | 12 | 14 |     |
|      |           |                    | 地域産業史         | 経済学部    | 5  | 16 | 21 |     |
|      |           |                    | 現代日本中小企業論     | 経済学部    | 9  | 11 | 20 |     |
|      |           | 学部                 | 観光入門          | 観光学部    | 11 | 3  | 14 |     |
|      | 後期        | 経済                 | 法人課税論         | 経済学部    | 1  | 18 | 19 |     |
|      |           |                    | 地方都市の交通とまちづくり | 経済学部    | 8  | 15 | 23 |     |
|      |           |                    | 現代企業経営論       | 経済学部    | 5  | 16 | 21 |     |
|      |           |                    | 会計学原理         | 経済学部    | 3  | 9  | 12 |     |
|      |           | 学部                 | みんなの科学入門      | システム工学部 | 5  | 2  | 7  |     |
| 2012 | 前期        | 経済                 | 国際租税法特論       | 経済学部    | 1  | 10 | 11 | 116 |
|      |           |                    | 租税法特論         | 経済学部    | 2  | 1  | 3  |     |
|      |           |                    | 会社法特論         | 経済学部    | 1  | 3  | 4  |     |
|      |           |                    | 現代社会と民事紛争     | 経済学部    | 7  | 8  | 15 |     |
|      |           | 学部                 | 日本史の深層        | 教育学部    | 12 | 4  | 16 |     |
|      | 学部        | 世界の音楽              | 観光学部          | 8       | 10 | 18 |    |     |
|      | 後期        | 経済                 | 公共経営論         | 経済学部    | 9  | 4  | 13 |     |
|      |           |                    | 法人課税論         | 経済学部    | 0  | 4  | 4  |     |
|      |           |                    | 現代マーケティング論    | 経済学部    | 3  | 4  | 7  |     |
|      |           |                    | 連結会計特論        | 経済学部    | 1  | 11 | 12 |     |
| 学部   |           | 身の回りのメカトロニクス機器のしくみ | システム工学部       | 12      | 1  | 13 |    |     |
| 合 計  |           |                    |               |         |    |    |    | 875 |

- 1) 担当欄の「経済」および「教育」は経済学研究科および教育学研究科の大学院授業、「学部」は学部開放授業。
- 2) 履修生は大学院科目等履修生および学部開放授業受講生。
- 3) 正規生は経済学研究科大学院生（岸和田・栄谷）、教育学研究科大学院生、学部生。

A-2 岸和田サテライト受講生のべ人数の推移（2006年度～2012年度）

| 年度  | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 合計   |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 学部  | —    | —    | 16名  | 11名  | 8名   | 21名  | 47名  | 103名 |
| 大学院 | 70名  | 84名  | 76名  | 128名 | 200名 | 145名 | 69名  | 772名 |

（備考）

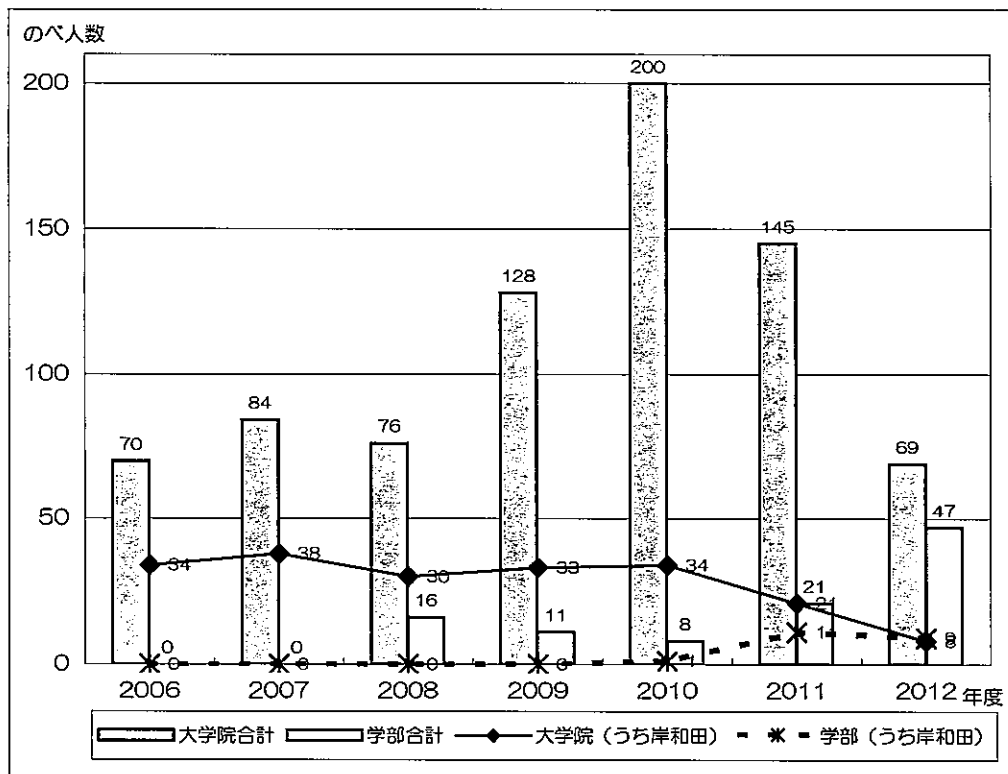
2006年度 大学院経済学研究科および教育学研究科授業開始

2008年度 学部開放授業開始

2009年度 大学院経済学研究科租税法研究専攻「専門研究」開始

2011年度 大学院経済学研究科授業への栄谷院生の一部履修制限実施、大学院教育学研究科授業休止

A-3 岸和田サテライト開講授業（大学院・学部開放）受講生数および岸和田市民・在勤者の推移





## A-4 2012年度 受講生アンケート結果

1. 回答数53（回収率71%：前期・後期終了時に郵送により実施）

| 区分 | 学部開放授業受講生 | 大学院科目等履修生 | 大学院生       |
|----|-----------|-----------|------------|
| 回答 | 27        | 12        | 14（岸和田・栄谷） |

2. 回答者属性

(1) 年齢（未回答 2）

| 年齢 | 20代 |   |   | 30代 |   |   | 40代 |   |   | 50代 |   |   | 60代 |   |   | 70代以上 |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |
|----|-----|---|---|-----|---|---|-----|---|---|-----|---|---|-----|---|---|-------|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|
|    | 9   |   |   |     |   |   |     |   |   | 4   |   |   |     |   |   |       |   |   | 7 |  |  |  |  |  |  |  |  | 4 |  |  |  |  |  |  |  |  | 16 |  |  |  |  |  |  |  |  | 11 |  |  |  |  |  |  |  |
| 区分 | 0   | 0 | 9 | 2   | 0 | 2 | 0   | 6 | 1 | 2   | 2 | 0 | 14  | 1 | 1 | 9     | 2 | 0 |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |  |    |  |  |  |  |  |  |  |

(2) 性別（未回答 5）

| 性別 | 男  |   |   | 女 |   |   |    |  |  |  |  |
|----|----|---|---|---|---|---|----|--|--|--|--|
|    | 34 |   |   |   |   |   | 14 |  |  |  |  |
| 区分 | 18 | 7 | 9 | 8 | 2 | 4 |    |  |  |  |  |

(3) 職業（未回答 3）

| 職業 | 会社員 |   |   | 自営業 |   |   | 教員  |   |   | 行政職員 |   |   | 会社役員等 |   |   | 家事・介護 |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |
|----|-----|---|---|-----|---|---|-----|---|---|------|---|---|-------|---|---|-------|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|
|    | 8   |   |   |     |   |   |     |   |   | 5    |   |   |       |   |   |       |   |   | 0 |  |  |  |  |  |  |  |  | 6 |  |  |  |  |  |  |  |  | 1 |  |  |  |  |  |  |  |  | 5 |  |  |  |  |  |  |  |
| 区分 | 0   | 2 | 6 | 2   | 3 | 0 | 0   | 0 | 0 | 1    | 5 | 0 | 1     | 0 | 0 | 4     | 0 | 1 |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |
| 職業 | 学生  |   |   | 無職  |   |   | その他 |   |   |      |   |   |       |   |   |       |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |
|    | 3   |   |   |     |   |   |     |   |   | 17   |   |   |       |   |   |       |   |   | 5 |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |
| 区分 | 0   | 0 | 3 | 15  | 2 | 0 | 3   | 0 | 2 |      |   |   |       |   |   |       |   |   |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |  |   |  |  |  |  |  |  |  |

(4) 居住地および勤務地（未回答あり）

| 居住地および勤務地    | 居住地 (区分) |    |   |   | 勤務地 (区分) |   |   |   |
|--------------|----------|----|---|---|----------|---|---|---|
| 岸和田市         | 13       | 6  | 6 | 1 | 2        | 1 | 1 | 0 |
| 泉南地域（貝塚市～岬町） | 16       | 12 | 2 | 2 | 5        | 1 | 4 | 0 |
| 泉北地域（堺市～忠岡町） | 4        | 1  | 2 | 1 | 2        | 0 | 2 | 0 |
| 大阪市          | 2        | 1  | 0 | 1 | 5        | 2 | 1 | 2 |
| その他大阪府内の市町   | 2        | 1  | 1 | 0 | 3        | 0 | 1 | 2 |
| 和歌山県         | 8        | 2  | 0 | 6 | 4        | 2 | 0 | 2 |
| 兵庫県          | 2        | 0  | 1 | 1 | 0        | 0 | 0 | 0 |
| 奈良県          | 1        | 0  | 0 | 1 | 0        | 0 | 0 | 0 |
| 京都府          | 0        | 0  | 0 | 0 | 2        | 1 | 1 | 0 |

### 3. 岸和田サテライトでの開講を知った手段（複数回答可）

| 手 段                 |    |    |   |   |
|---------------------|----|----|---|---|
| 岸和田サテライトからの郵送・Eメール  | 18 | 10 | 6 | 2 |
| 岸和田市の「広報さしわだ」       | 4  | 2  | 2 | 0 |
| 岸和田サテライトのチラシ        | 13 | 10 | 3 | 0 |
| 知人の紹介               | 3  | 2  | 0 | 1 |
| 岸和田サテライト・和歌山大学HP    | 20 | 9  | 4 | 7 |
| 岸和田市HP              | 0  | 0  | 0 | 0 |
| その他（ミニコミ紙、スタッフの案内等） | 3  | 0  | 2 | 1 |

- ・大学および岸和田サテライトのホームページ、サテライトから送付する郵便やメールによる案内チラシが有力な媒体となっている。
- ・既履修生だけでなく、これまでの「わだい浪切サロン」参加者やセミナー参加者にメールアドレス登録を呼びかけ、メールでの案内を広く実施している。

### 4. 受講の動機（複数回答可）

| 動 機               |    |    |   |   |
|-------------------|----|----|---|---|
| 仕事に役立てたい          | 12 | 1  | 8 | 3 |
| キャリアアップを図りたい      | 3  | 0  | 2 | 1 |
| 専門的な知識を身につけたい     | 14 | 1  | 5 | 8 |
| 社会活動に活かしたい        | 3  | 1  | 2 | 0 |
| 豊かな教養を身につけたい      | 22 | 17 | 3 | 2 |
| 知らない学問分野を学びたい     | 25 | 17 | 2 | 6 |
| 体系的な大学の授業を受けたい    | 2  | 1  | 1 | 0 |
| 授業のテーマに関心があった     | 27 | 16 | 6 | 5 |
| 大学院へ入学して研究したい     | 3  | 1  | 2 | 0 |
| 資格取得のため修士学位を取得したい | 9  | 0  | 0 | 9 |
| その他               | 3  | 1  | 2 | 0 |

- ・「学部開放授業受講生」の動機には、授業テーマや未知の学問分野への関心、教養の向上などの従来型生涯学習ニーズによるものが多い。
- ・「大学院科目等履修生」では、仕事との関連、専門的知識や授業テーマへの関心など、リカレント型ニーズによるものが多い。
- ・「大学院生」では、本来の修士学位取得目的のほか、専門的知識、未知の学問分野、授業テーマへの関心によるものが多い。

## 5. 授業の評価 (記述欄から抜粋)

### ■学部前期 「日本史の深層 一秀吉 vs 紀州惣国一」

#### <受講してよかったと思う点>

|   |
|---|
| 現地での講義(フィールドワーク)を入れた内容が良かった。                            |
| 授業が終わった後も先生からメールで情報を送っていただけで良かった。                       |
| 少人数で、同年代(60代以上)の人が多かったのが良かった。                           |
| 楽しかった。バスで現地に行ったことが良かった。個人で実際に和歌山へ行って検証した。次回も続けて開講して欲しい。 |
| 受講生が(ある程度)専門的知識を持っていると考えられて、水準を下げない内容で授業を進められたことに感謝です。  |
| 岸和田・貝塚の中世終焉に至る歴史的闘争の最前線の実地検証には胸躍る思いでした。                 |

#### <<改善すべきだと感じた点>>

|                             |
|-----------------------------|
| 4時間の講義時間だが、終盤にもう少し工夫が欲しかった。 |
|-----------------------------|

### ■学部前期 「世界の音楽 ー音楽からアプローチする比較生活文化論ー」

#### <受講してよかったと思う点>

|   |
|---|
| オーボエのことを知り、先生の生演奏が聴けて良かった。  |
| 色々なクラシックを聴けて、今後はクラシックにも親しんでいこうと動機づけになった。  |
| 西洋古典から近現代という時間軸と東西の音楽の接点についての講義が刺激的だった。   |
| 今まで聴いてきた音楽を系統的に確認できたこと。先生の暖かくやさしいお人柄に直接触れられたこと(忘れられない思い出になるでしょう)。音楽が心から好きな仲間と楽しい時間を共有できたこと。 |

#### <<改善すべきだと感じた点>>

|  |
|--|
| 特にヨーロッパの音楽とキリスト教との関係について説明が少なかった。  |
| 「食卓史」の話は、音楽との関連はあったかと思いますが、必ずしもなくてもよかったのではと思いました。その時間を音楽の方に割いてもらえたらと思いました。 |
| 音楽を聴く授業だったので、それ対応の教室であるとなお良いと思いました。  |

### ■学部後期 「身の回りのメカトロニクス機器のしくみ」

#### <受講してよかったと思う点>

|                                  |
|----------------------------------|
| 全体のまとまりはよかった。                    |
| 家電について、多少は理解が深まったと思う。            |
| 不得手な分野であったが、受講を契機として興味を持つようになった。 |
| 先生方との距離が近く、楽しく受講することができました。      |

#### <<改善すべきだと感じた点>>

|   |
|---|
| もう少し実験を多くして授業を面白くしてほしい。                       |
| 講義ごとに教授が変わるのはどうか。必ずしも良くない訳ではないが、先生との交流を深めにくい。 |
| ビデオやレジメだけでなく、内容理解のために実物を用いた講義が好ましい。           |



■大学院前期 「国際租税法特論」

<受講してよかったと思う点>

事例を使っの授業が良かった。

国際税法は一般的な税理士では触れることがないので、このような税法を学べたことは大学院ならではの経験になった。

国際的な租税問題について知ることができてとても良かった。

今後、仕事で扱うことがあれば、役に立つと思いました。

<<改善すべきだと感じた点>>

使用教材を含めて難解だった。もう少し入門用の教材やレジュメの積極的な配布をして欲しかった。

難易度がやや高かった。

■大学院前期 「租税争特論」

<受講してよかったと思う点>

体系的に学習できました。

■大学院前期 「会社法特論」

<受講してよかったと思う点>

発表とディベートがメインの授業だったので、大学院らしい内容だった。プレゼン能力を高めるという意味では大満足。

<<改善すべきだと感じた点>>

もう少し受講者の数を増やすべきと思う。

■大学院前期「現代社会と民事紛争 一山崎豊子原作の『白い巨塔』を中心に」

<受講してよかったと思う点>

ビデオを主体とした授業は大変興味を持てた。その都度、問題点など、ビデオを止めて解説していただき、大変分かりやすかった。

映像を使用した授業は、難しい内容を理解するのに役立った。

民事紛争について映画等を題材として学んだので、知識がなくてもわかりやすかった。

<<改善すべきだと感じた点>>

DVDを観て感想を書くだけでなく、論点を決めた討論と解説も期待していた。

もう少しディスカッションを多くして欲しい。

■大学院後期 「法人課税論」

<受講してよかったと思う点>

受講生のやりたいことを理解した上で、適切なアドバイスをいただけた。授業の構成も、前半授業形式、後半レポートに対する質疑応答などで充実していた。

法人税の仕組みを学べた。先生への質問が多岐にわたり、いろいろなことが学べた。先生がよかった。

<<改善すべきだと感じた点>>

全くなし。来年度の開講がないのが残念でなりません。

■大学院後期 「公共経営論－パブリックセクターの変革をどう進めるか」

<受講してよかったと思う点>

|  |
|--|
| ホームワーク（課題）と授業の関連性。自主的考え方を生かせるような取組み。                                   |
| 身近なところで、自治体のあり方に関連する講義を受講できたこと。また、全国的な自治体の動き及び現状を知ることになったことが良かったと思います。 |
| 公務員の方々とコミュニケーションがとれたこと。  |

<<改善すべきだと感じた点>>

|   |
|---|
| グループワークが中心でしたので、もっと（全体の）コミュニケーションを活発化する方法が欲しいと思います。 |
| 対象が市民向けなので仕方がないと思うが、大学院のレベルとしてももう少し高いものを希望する。       |
| 公共経営の「公共」とは何か？を受講生同士もしくは、先生との間で掘り下げるべきではと思った。       |

■大学院「現代マーケティング論－売れる仕掛けを考えるマーケティング」

<受講してよかったと思う点>

|  |
|--|
| 先生の積極的な講義。   |
| 自分の仕事にあてはめて実践できると思う点。多方面から物事を考え、判断できるようになったと思う点。   |
| マーケティングの基礎理論を分かりやすく説明いただけた。自分の仕事についても省みることができて、改善できることがあった。仕事場でもマーケティングの重要性を部下に説くくらいのめりこんでいる。ビジネスマン向けの講座もどんどん開講していただきたい。 |

<<改善すべきだと感じた点>>

|                   |
|-------------------|
| フィールドワークがあればよかった。 |
|-------------------|

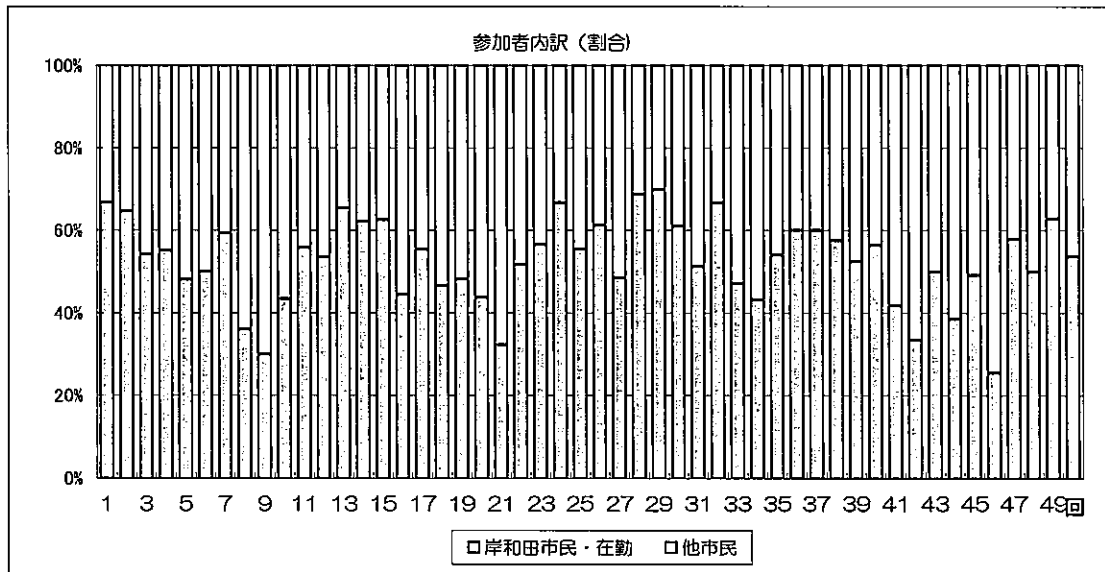
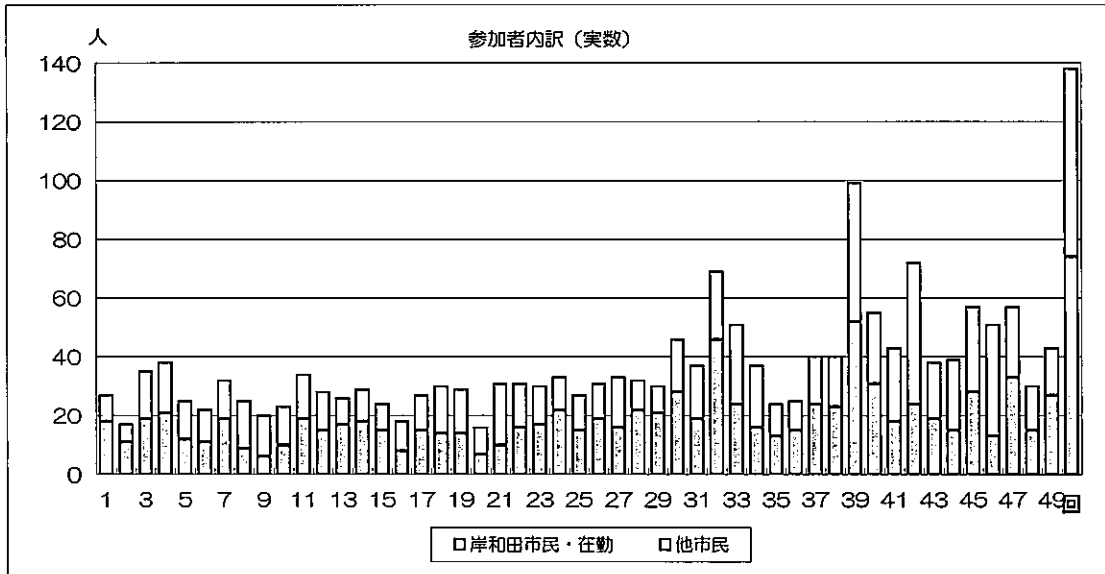
6. 今後、岸和田サテライトで受講してみたい科目（テーマ）

|                            |
|----------------------------|
| 租税（法人税、所得税、消費税）、国際会計       |
| 経済学（理論、思想史、地域経済）           |
| 経営学（理論、地域の経済人を招く、中小企業関係）   |
| 金融論                        |
| 観光学部関係（茶道、華道、世界文化遺産、熊野古道等） |
| ロジカルシンキング、チームマネジメント、ディベート  |
| 心理学全般                      |
| 文化（美術、美術史、音楽、方言）           |
| 文学（古典、文学全般）                |
| 歴史（郷土史、上代の歴史）              |
| 地震、津波に関すること                |
| 自然エネルギー問題                  |
| ものづくり                      |
| 教育問題、子どもの遊び                |
| 天文学                        |

7. 岸和田サテライトでの授業全般についての意見・感想・要望

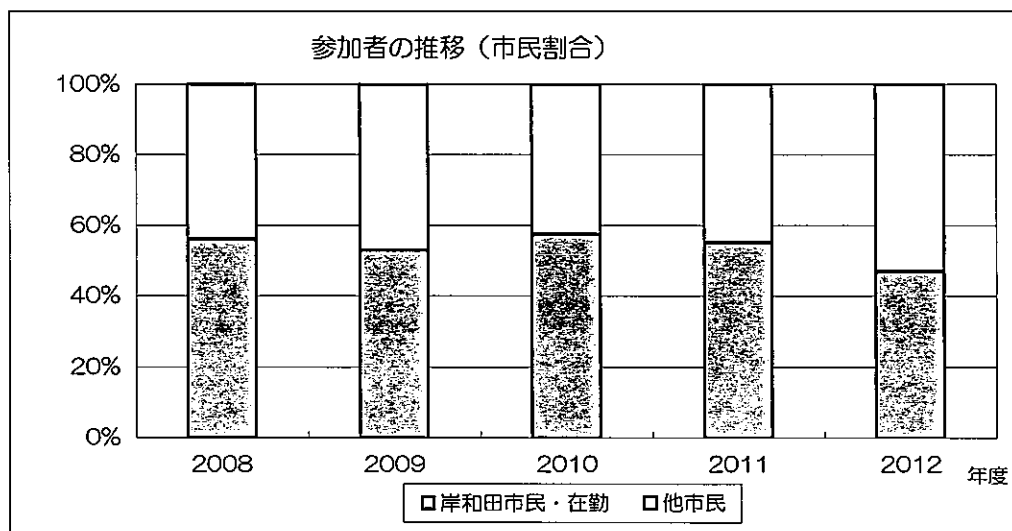
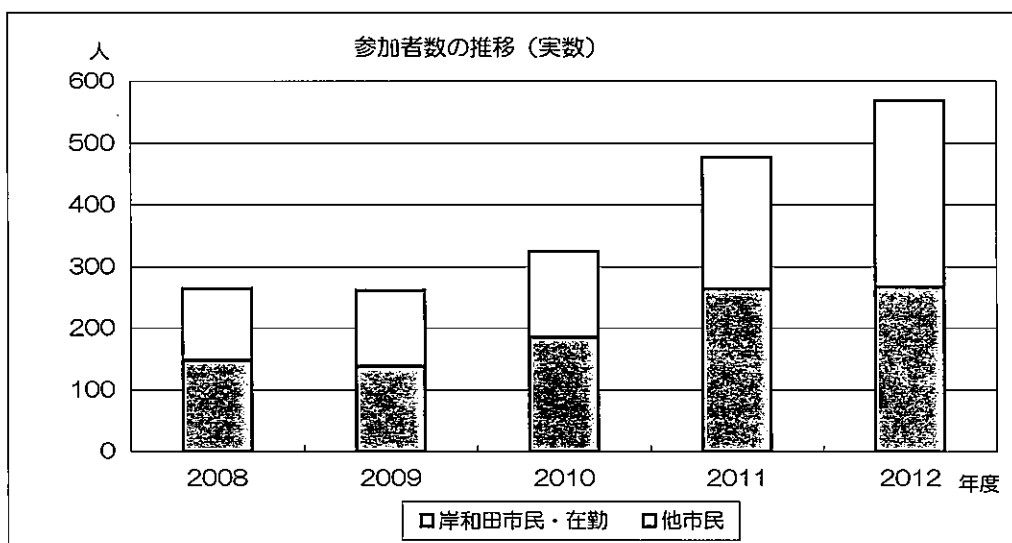
|   |
|---|
| <学部開放授業について>  |
| 学部開放授業を社会人教育と考えるならば、もう少し特色を出してみたらどうか。   |
| 学部開放授業の科目数を増やして欲しい。   |
| 今後、興味のあるテーマがあれば積極的に受講していきたい。生涯学習をする歳になって益々知的欲求が高まり、興味を喚起してくれるテーマ・内容であれば受講する気持ちは十分にある。   |
| <大学院授業について>   |
| 専門的な授業が開講されていたので、自分のスキルアップにつながりました。先生方も素晴らしい方ばかりで、授業以外での面でも学ぶことが多くありました。(大学院生)  |
| 税法科目が少ない。(大学院生)   |
| 少し専門的な科目に偏りすぎている。もう少し「興味が持てる」科目の組み合わせが欲しい。(科目等履修生)  |
| 受講生の立ち位置が分極しているように思います。(科目等履修生)   |
| 授業内容について、大学院というレベルなのかどうか疑問です。(科目等履修生)   |
| <授業方法等について>   |
| 今回の授業(日本史の深層)のように、教室外でのフィールドワークのような授業形態が良い。   |
| 集中講義なので、途中休憩をもう少し時間をいただきたい。   |
| テーマに(多少とも)精通している人のペースに合わせた授業はやめてほしい。  |
| <設備、環境、手続等について>   |
| 参考図書について、サテライト事務室で増やそうと努力して、私たちの要望を聞いて購入して下さったのが有り難かったです。もっともっと本の数が増えるように願っています。(本学附属図書館では租税法関連の本が少ないし、要望を出しても購入するまで数ヶ月かかるので) |
| サテライトはきれいで、事務室の方のおかげで雰囲気もいいので通いやすかったです。少し遠いですが、ありがとうございます。  |
| 授業料等を銀行窓口(ATM不可)でしか入金できない等、手続の不便さを解消していただきたいです。   |
| <全体について>  |
| 自分の趣味に合えば、また受講したいと思います。   |
| 創設以来、いまだ新しいのによく頑張っていると思います。   |
| 末永く発展、進化を。  |
| 毎月の浪切サロンはありがたい。   |

B-1 わだい浪切サロン 参加者数と岸和田市民の割合（回別）



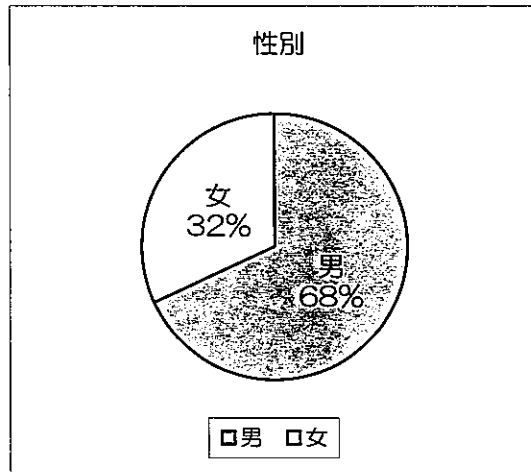


B-2 わだい浪切サロン 参加者数と岸和田市民の割合（年度別）

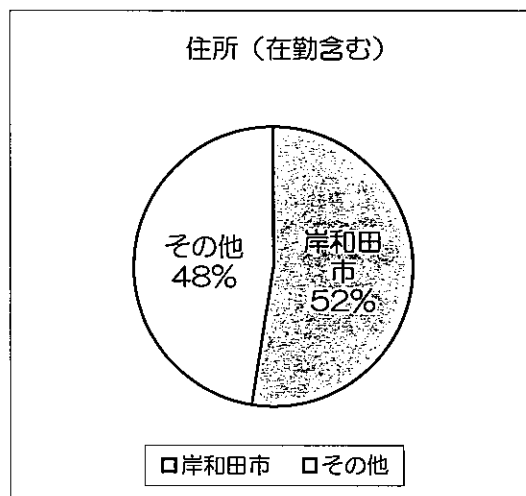


B-3 わだい浪切サロン参加者における男女比および岸和田市民の割合  
(50回計)

| 性別 |      |
|----|------|
| 男  | 1289 |
| 女  | 605  |
| 計  | 1894 |



| 住所(在勤含む) |      |
|----------|------|
| 岸和田市     | 993  |
| その他      | 901  |
| 計        | 1894 |



■ 社会人受講生が増加 ～フィールドワークや実習を取り入れた学部開放授業～

「日本史の深層 一秀吉VS紀州徳国一」(海津一朗 教育学部教授)

5月19日(土)、中世末期に紀州・根来衆が山城を築いた(現在の貝塚市)近木川沿いにフィールドワークに出かけました。城跡跡を巡って「中世日本の国境」の跡を探ることが狙いです。和太 OB で貝塚市郷土資料室学芸員の曾我友良氏にガイドをお願いし、マイクロバスを仕立てて約22名の半日ツアーとなりました。

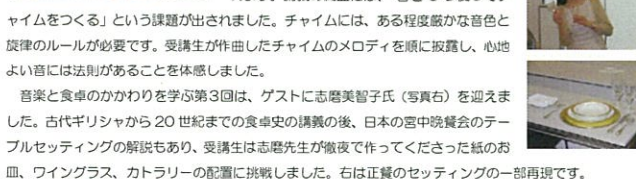
最初に訪れたのが、貝塚御坊・願泉寺。中世末期に本願寺の拠点が置かれた由緒ある寺院です。境内の欄に刻まれた文字から、秀吉の紀州攻めによって徳国一揆が制圧されていく過程で貝塚御坊の果たした役割の痕跡を読み取ります。その後、潭城跡、富山城跡を見学し、秀吉が陣を置いたという丸山古墳へ。一行は前方後円墳の上で「根来山城配置図」を広げ、400年前の秀吉高と根来衆の攻防に思いを馳せました(写真右)。続いて、積善寺城跡、髭井城跡、平石城跡を訪ね、水間寺で一休み。さらに山手へ足を伸ばし、孝恩寺で国宝・釘無堂を見学(写真左上)。最後はバスの車窓から積善寺城跡を眺め帰路に着きました。

受講生からは、「貝塚に住んでいながら貝塚の歴史を知らなかった。日本史の転換点となる事件や遺構が足元にあったとは」、「秀吉に対して根来衆が貝塚の地で防戦したことがよくわかった」などの声が寄せられました。海津教授は、このフィールドワークの記録映像をもとにした視聴覚教材の制作を進めています。

「世界の音楽 一音楽からアプローズする比較生活文化論一」(米山龍介 観光学部教授)

第1回は、米山先生のしっとりとした響く声とキーボードの生演奏、クラシック音楽DVDの音色に包まれました。「音楽には力がある」と受講生の一人が発言。軽快なのがいいのか、差し系がいいのかは人それぞれ違いますが、ミュージック・セラピーというものがあのように、落ち込んだ時にも音楽が役目を持ってきます。講義の終盤は、「音を5つ使ってチャイムをつくる」という課題が出されました。チャイムには、ある程度厳かな音色と旋律のルールが必要です。受講生が作曲したチャイムのメロディを順に披露し、心地よい音には法則があることを体感しました。

音楽と食卓のかかわりを学ぶ第3回は、ゲストに志磨美智子氏(写真右)を迎えました。古代ギリシャから20世紀までの食卓史の講義の後、日本の中晚餐会のテーブルセッティングの解説もあり、受講生は志磨先生が徹底して作ってくださった紙のお皿、ワイングラス、カトラリーの配置に挑戦しました。右は正餐のセッティングの一部再現です。



■ 第42回(5月16日)

スマートフォンで変わる! 生活の情報化  
— 友達づくりから非常時の安全確認まで —  
(原田勇司 システム工学部教授)

スマートフォンとソーシャルメディア

スマートフォンとは、「個人用の携帯コンピュータの機能を併せ持った携帯電話、つまりPCを携帯サイズにして持ち歩いているもの」といってよいでしょう。

一昨年から、スマホが急速に普及しました。調査によって差はありますが、スマホのユーザーは携帯電話ユーザーの約2割です。世代別では若者への普及率が高く、20歳代の約4割がスマホのユーザーです。40、50歳代も増えており、いずれスマホの利用者数が従来の携帯電話の利用者数を抜くと考えられます。

最近、スマホを使ったソーシャルメディア(ツイッター、フェイスブックなど)の活用が話題です。ソーシャルメディアとは、友達づきあひのような社会関係をネットワーク上にもってきて、情報をやり取りしようとするものです。現在、ソーシャルメディアの利用率は携帯電話ユーザー全体の5割くらいですが、スマホユーザーのソーシャルメディア利用率は7割と高くなっています。

災害とネットワーク環境  
阪神淡路大震災時と東日本大震災時では、ネットワーク環境に大きな違いがあります。平成9年のインターネット人口普及率9.2%に対して平成22年では78.2%。携帯電話加入数は、平成6年の433万に対して平成22年は11,953万です。災害時、電話に比べてネットはつながりやすいと言われてきましたが、実際に3.11ではどうだったのか。岩手、宮城、福島の大震災住民に「役に立った情報源」を聞いたところ、インターネットという回答が少なかつたです。地震直後は電力と通信が断絶していたためです。反対に、情報源として役に立ったのがラジオです。乾電池があれば使えますし、カーラジオ

の利用も多かったようです。災害時の問題として、まず電話が繋がりにくくなります。また、地震や津波で通信装置が故障する、停電する、自家発電機を動かす燃料がもたないといったことがあります。携帯電話は無線だから大丈夫とは言えず、電力や装置が使えなくなると駄目になります。停電した場合の基地局のバッテリー稼働時間は長くても1日くらいしかありません。また、電話会社側の設備が無事でも、携帯電話の電池切れも致命的です。従来の携帯電話は通話しなければ数日はバッテリーが持ちますが、スマホは1日ほどで切れてしまいます。予備のバッテリーや手動充電装置などの備えが必要です。

非常時の通信の確保とスマートフォン  
山間地が多い日本では、災害時に孤立してしまう集落がたくさん発生しますから、平時の通信が使えなくなるとときに、いかにして外部と情報をやり取りするかが課題です。いろいろな通信手段が提案されていますが、単一の手段に依存することは危険であり、複数の通信手段を用意しておくことが大切です。昔ながらの方法として線路も有効ですし、地面にシートを敷いて、その上にSOSの文字や必要な物資等を表示する方法もあります。そうしたなか、「アドホックネットワーク」という技術が目立っています。電波の届く範囲内で、その恩恵の範囲を広げ、ネットワークを築く技術です。東日本大震災の際には、大船渡市などでアドホックネットワークを使った避難所内ネットワークが実現した事例もありました。上記の地面に字を書く方法は、上空を飛行するヘリコプターに地上の要求を伝える手段です。これも東日本大震災時には実際に活用されました。原始的なコネクテッドが、有効な手段です。ただし、夜間は見えません。そこで私たちの研究室では、ローテクとハイテクを合わせて、可視光(LEDの発光)を用いた非常時通信の研究にとりかかっています。また、モジュールのように光にメッセージを乗せて発光し、専用の装置を用いてそのメッセージを読み取ることもできます。今後、こうした方法がスマートフォンを使っても進むと考えています。(参加者72名)

「わだいなげサロン」ダイジェスト

■ 第41回(4月18日)  
農作業の負担低減!  
— 和歌山大学のパワーアシストスーツ —  
(伏見一 システム工学部教授)

農作業用/パワーアシストスーツの開発の背景

日本の農業は少子高齢化が急速に進んでいます。2006年の農業者人口のうち60歳以上は220万人以上で、全体の約7割です。後継者不足のため農家全体の戸数は減っています。食料自給率の向上が叫ばれる今日、農業従事者の高齢化を踏まえた農業支援機器の開発が必要

です。北海道のような広大な土地での農作業はコンバインなどの大型機械です。しかし、和歌山県など山間部の多い土地ではそうはいきません。また、果実の収穫作業などを機械によってすべて自動化することは難しいです。そこで、腕を上げ肩で行う果実の収穫作業や収穫物の入った重いコンテナを運搬する作業の負担低減をしようと考えて、アシストスーツの開発を進めてきました。

軽くて、安全なアシストスーツが目標  
アシストスーツは農作業の負担を1/2から1/3に低減することを目標としています。つまり、20キロのコンテナを持ち上げる負担をロボットによって10キロに低減します。なぜ20キロ全部ではないのかというと、重い物を持ち上げるためにはパワーのある大きなモーターが必要となり、アシストスーツが重くなってしまいます。また、コンテナの重さを感じないほどアシストスーツが力を出すことは、安全面から問題があると考え、モーターの出力は装着者がおこなう範囲内に制限しています。もし誤ってコンピュータが人間の動作と逆方向に動いたときには、人間がそれを逆回転で転送することが必要だからです。

現在、軽作業と重作業の2タイプのアシストスーツを開発中です。軽作業用は、ぶどうの収穫などのよう

に上向きでの作業を助けるときに、腕が疲れないように肩関節を保持します。傾斜地歩行時のアシストもできるようになっています。重作業用は、コンテナなどの重荷物運搬時の腰の負担低減のために腰をアシストします。装着型のアシストスーツに必要なことは、人間の次の動作を推定してアシストに必要な力を算出することです。従来の筋電位信号の技術を使う場合、筋の表面に電極を貼り付けるわずらわしさがありました。私たちは筋電位信号を使わずに、装着者の肩や股関節の角度などを計測することによって、力学的にアシストに必要な力を算出する技術を採用しています。アシストスーツを動かすのに必要なデータのやり取りは無線で行います。現在は起動時にパソコンを使用していますが、今後はスマートフォンでできるようにしようと思っています。

実用化・製品の普及に向けた課題

新しい製品は、人々が安心して購入して使用できる環境があってはじめて普及し、大量に売れるようになります。自動車には保険があり、農業機械にはJA共済があつて、事故が起きたときには保険があります。パワーアシストスーツもこのような対象にしてもらって普及させたいと考えています。

アシストスーツの開発にあたっては、和歌山県工業技術センターやJAGグループと和歌山に協力をいただいています。昨年度から現場での実証試験を始めました。今年度は、実際に長時間アシストスーツを使ってもらい、問題点を見つけていきたいと思います。

今後、低コスト化、軽量化、コンパクト化などの課題を克服して、少しでも早く実用化できるよう研究を進めていきたいと思います。

農作業支援ロボットは、介護支援ロボットよりも安全化の課題をクリアしやすという利点があります。将来的には、介護支援、歩行支援などの分野もこの技術を広げたいと思います。(参加者43名)

■ トピックス

平成24年度 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会

4月16日、岸和田市役所で開催された本年度の協議会では、平成23年度事業報告に続き、平成24年度事業計画案が承認され、今後も大学と市が対等互恵の精神のもとに、各分野の連携事業を推進していくことを確認しました。本推進協議会の下には企画運営委員会が設置され、実務レベルでの協議を定期的に実施しています。(写真中央左/野口聖和岸和田市長、右/山本健徳和歌山大学長)

平成24年度 和歌山大学岸和田サテライト連携協議会

本連携協議会は、広く岸和田市の活性化及び市民の教養文化の向上を目的に、岸和田サテライトの活用を推進しています。大学関係者、岸和田市及び岸和田市教育委員会関係者のほか、地元産業団体としてJAいすみの、岸和田商工会議所・大阪鉄工金属協同組合より委員を派出しています。

6月1日の協議会では、中小企業の経営や人材育成に関する学習会への提供や、今年度後期に予定している地域課題研究プログラム等について話し合われました。(写真中央/谷口敬信JAいすみの常務理事)

和歌山大学岸和田サテライト地域連携事業報告(2011年度)

昨年度のサテライト事業および地域連携事業の報告冊子を発行しました。岸和田サテライトのホームページ上でも公開していますのでご覧ください。

■ コーディネーター・ミニレポート

産学連携学会第10回大会(6月14日・15日)

高知市内で開催された産学連携学会の大会に参加してきました。冒頭の高知知事講演「産学官連携による地域活性化」は、産学官が一体となって地域資源を最大限に活用し、若者が生きがいを感じて取り組める仕事を地元につくり出してほしい、という行政トップの強い思いが伝わりました。

2日間に発表される100近くの研究・事例から、地域連携コーディネーター業務の参考となりそうなものを探して会場を回りました。高知大学と高知市との連携事業(総合計画の基礎資料作成やその成果の学校教育現場での活用)、四国の産学連携コーディネーターのネットワークづくり、広島大学のイノベーション人材養成プログラム、連携事業の経営負担の分担に関する事例など、示唆に富んだ報告がいくつもありました。

地域の自立的発展のために大学は何ができるか。大学ならではの力で、地域課題の解決につながる人材育成の道途をつけていくことが、コーディネーターの仕事としても大切になってくるのだと考えています。(松本俊哉)

国立大学法人和歌山大学岸和田サテライト 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F  
TEL/FAX : 072-433-0875 E-mail : kishiwadastaff@center.wakayama-u.ac.jp  
http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/ 2012年(平成24年)7月発行



■岸和田サテライト友の会総会・夏季講演会(プレ授業)を開催

7/21(土)、平成24年度の友の会総会および夏季講演会が開催されました。総会では、今後の会の活性化を視野に入れて幹事の増員と規約改正が行われました。総会に続く懇談会では、会員の自己紹介を中心に友の会の運営やサテライトに対する要望を出し合いました。「社会人どうしのかかわりが楽しい」「若い世代の力にもなりたい」「地域活性化のためにがんばりたい」など各々各様のサテライトへの思いが語られました。学部開放授業の受講者増加にもなっており新会員も増えています。新会員のなかには、「わだい浪切サロン」への参加をきっかけにサテライトで受講されるようになった方もいます。友の会が、サテライトに来られる方々を橋渡しする場にもなってきました。



講演「公共部門の経営(パブリック・マネジメント)について考える」は、後期大学院授業を担当される江口雅洋先生にプレ講義を兼ねてお話しいただきました。公立図書館運営の民間委託をテーマにしたワークショップを取り入れた講演には、友の会会員のほか一般参加者を含む41名の参加がありました。10月から始まった江口先生の授業には、プレ授業に参加された方を含む11名の科目等履修生が受講されています。

\* \* \* \* \*

■経済学部夏季集中授業「地域調査研究」に参加



8/22(水)~25(土)、経済学部の藤田史講師が担当する夏季集中授業「地域調査研究」が、岸和田周辺のものづくり企業をフィールドに行われました。地元企業について学ぶ絶好の機会だということで、岸和田サテライトの受講生も参加させてもらいました。

大阪鉄工金属団地と岸和田工業センターの金属加工関係の企業を8社、JA農産物直売所や食品加工企業を訪問し、工場見学や聞き取りのほか味噌手作り体験などを行いました。地元の中小企業が、厳しい経営環境のなかでも品質管理と納期厳守によって取引先との信頼関係を維持している様子や技術者の育成に力を入れていることなどを学ぶことが出来ました。

藤田講師には、12月のわだい浪切サロンで「ニッポンのものづくりと中小機械工業」についてお話しいただく予定です。

■第44回(7月18日)「名物町おこし! ~和歌山ラーメンブームをつくった「伝わる情報」とは~」 床井 浩平(システム工学部准教授)

1990年代初期に大学間ネットワークへの接続、パソコン通信を経て、和歌山県内で最初のwebサーバーを立ち上げてホームページを作りました。そのとき、コンテンツがなかったため、好きなラーメンのことを書くようになりました。

1994年頃、インターネットサービスプロバイダが登場し、Windows95の出現とwebブラウザの搭載によってインターネットが爆発的に流行しました。まだ当時はホームページの数が少なく、「和歌山」ラーメンで検索すると、一番私のラーメンのページがヒットしていました。しばらくすると、「元車庫前とか県立体育館前っていったい何?」「伝承がなくて自己申告?」「ラーメンに鯖寿司が絡むようになってる!」などの私の疑問や驚きに対して、ネットを通じていろいろなお問い合わせが寄せられるようになりました。和歌山ラーメンの認知度アップとインターネットの普及は切り離せない関係にあったのです。

和歌山ラーメンのおいしさをどうやって伝えるか?言葉で「うまさ」は直接伝わりません。うまさだと想わせる説明が必要で、「豚骨ベースの醤油味」「魚介類ベースの醤油味」などの表現のように相手にすぐに分かっている情報を使って説明したり、なぜそんなラーメンが和歌山にあるかを文化的・歴史的背景から説明したり、有識者を出して権威づけたりという方法があります。

「井出系」「車庫前系」というラベルが飛び交っているシーチュエーションを作り出すことで、そのリーディング・ブランドとしての井出商店、O高(まるだか)のクロスアップなどがその工夫だといえます。

コミュニケーションとは、メッセージを出発点、事実、考え、気持ちなどの情報を伝えることです。情報を伝えるときは、やみくもではなく、相手の持っている情報を補充する形で提供しなければいけません。相手が何を知らないのか、何を知らないのかを知ること、そしてそのことをよく聞き、的確に返すことが重要です。「和歌山ラーメン」のブームは、こうしたコミュニケーションにもとづいて作られたものでもあったのです。



意外なことですが、「和歌山ラーメン」は東京で生まれました。和歌山ラーメンが注目されたのは、1995年頃に東京で「まちっ棒」というお店が開店したことに端を発します。このラーメンは、「井出商店」の味に近い豚骨系のこってり醤油味です。そして1998年、井出商店が「TVチャンピオン」という番組で優勝し、和歌山ラーメンが東京から全国的に広まっていきました。

その頃、新横浜ラーメン博物館の広報担当だった武内伸氏(故人)から私のところにメールが来ました。新横浜ラーメン博物館は、昭和の雰囲気や全国のラーメンを味わえるフードテーマパークです。当時そこで、ブームになっていたご当地ラーメンとして「和歌山ラーメン」を取り上げようとしたのですが、地元の和歌山市には「和歌山ラーメン」の情報がなかったのです。そこでインターネット検索で私のホームページを見た武内氏から私に連絡が入ったというわけです。

(文責 神谷 千香)

■第43回(6月20日)「災害時のアジアの大都市 ~都市化による景観変化は社会に何をもちたらずか~」 原 祐二(システム工学部講師)

2011年秋のタイの大洪水では、日系企業の工場が冠水して現地生産がストップするなど、被害の様子や経済面への影響が報道されました。なぜ今回の洪水被害が起こったのか、それがタイの土地利用・土地開発とどのような関係があるのか、現地調査も踏まえてお話しします。

タイのバンコクを空撮すると、山はなく、起伏のない都市部には高層ビルが林立しています。例えば岸和田から若狹までの広さに相当する陸地のうちには山はなく、標高差は10メートルとほとんど差がありません。平野は大変大きなが長年かけて堆積してできたもので、短く急な傾斜が多い日本と比べてその形がかなり違っています。この土地環境が、人々の文化的要素や土地についての考え方などに重要な影響を及ぼしていると考えます。



アジア各都市の土地利用の特徴は、水田の造成(埋め立て)にもなっており池が豊富に存在しています。土地の低い水田に工場を建てるには埋め立て(土盛り)が必須ですが、完全に地平線まで土地が平坦な状況で、ある一画を盛り上げようとしても十分な土がないため、場当たり的に、隣の溝あたりの土地を賣って土を掘り、その土を埋め立てて利用しています。水田を住宅や工場に造成するとき、最初は近隣の池を掘るので、洪水が来ても水はある程度はそれらの池にたまって、地盤は守られる状態になります。ところが、池が多くなり地盤の弱

ら土を運んでくる造成が進むと、水の行き場がなくなり、洪水被害のリスクが高くなってしまいます。

今回の洪水は、上流部で例年の2倍近くの雨が降り、それが下流へ流れたため、大規模な冠水が起きました。一気に下流へ流れてしまったのです。新しい住宅が多い地域は、もともと住宅をかさ上げしていることもあり、被害は少なく、個人レベルで排水の処置がとられていました。ただし、都市部を守るために水を貯留させたところでは、通気性に拡大した住宅地が大きな被害を受けました。新興住宅地の周辺には土質が硬く、自動車は高台や陸橋の上に、家庭用道具は2階に移動させて、住民は水の引くまで都市部のホテルに滞在するなどの対応がされていました。

一方、農村に入っていくにつれて水位が上がり、冠水がひどくなっていましたが、この地域の住民は日常的に運河ポートを利用するで生活機能は保たれていました。旧集落では、水はゆっくり来てゆっくり引くものと受け止めて落ち離れて対峙できたり、いすいすい引くのをゆっくり待たせようという生活の知恵が継承されていること、そして、伝統的なあきらめ精神でも言うような、住民のタフさがありました。そこが新興住宅地と対照的でした。

\* \* \* \* \*

私の研究室では、どこが冠水するか、池のあるなしで冠水の変りかどどのように違うか、今後の埋め立てはどこを優先すればよいかを空間的・数量的に検証する研究をおこなっています。今回の洪水では、下流の都市部は一時的に長大な土壌ダムを作った保護されたため被害を免れましたが、日系の工場や住宅地がある北部が完全に冠水してしまいました。今後の教訓として、上流でのダム放水のタイミングと、開発にもな埋め立て地の削減に課題があることが明らかになりました。

■産業高校から和太キャンパスツアー

7/13(金)、岸和田市立産業高校の生徒と教員が和歌山大学経済学部を訪れました。大講義室での授業見学をした後、経済学部・足立基浩ゼミの学生と交流しました。大学の授業やゼミに目を輝かせる生徒の皆さんや今年度経済学部に入学生と教員との再会を喜ぶ先生の姿が印象的でした。



■浪切ホール「夏フェス」に出展

7/16(祝)、浪切ホール会館10周年記念行事「NAMIKIRI 夏フェス!」が開催されました。岸和田サテライトもホールの1室をお借りして、これまでの授業や浪切サロンの紹介、大学の広報宣伝などを行いました。当日は、共同で部屋を使用したコミュニティFM「ラヂオきわだ」が行った漫オイベントなどもあり、にぎやかな出展になりました。「夏フェス」を訪れた方々に、岸和田サテライトをPRすることができました。

■「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」に参加

7/5(木)~6(金)、和歌山大学の主催によりコーディネーター人材の育成をテーマとするセミナーを開催し、全国51大学・機関から100名の参加がありました。初日は、本学の山本健徳学長と文部科学省の池田貴城大学振興課長の講演のほか3大学から事例報告がありました。若手県立大学や松本大学の先生方の実践報告に続いて、岸和田サテライトを含む本学の地域連携コーディネーター5名がサテライト事業について報告しました。

翌日は、大学の地域連携戦略やコーディネーター育成の課題についてワークショップ形式で意見交換を行い、地域連携コーディネーターという仕事のあり方をめぐって関係者間でネットワークを作り、継続して情報交換を進めていくことを確認しました。



■フィールドミュージアムマップ 完成間近!

5月のサテライト学部開放授業「日本史の深層」(海津一朗 教育学部教授)で取り組んだ「中世日本の国境めぐりフィールドワーク」をもとにフィールドミュージアムマップを制作中です。表面は岸和田市教育委員会所蔵の「根元出城図」を掲載、裏面は現在の住宅地図に史跡をプロットしたフィールドワークに使える地図と史跡解説です。完成までもう少し。乞うご期待。



■講演「超高齢・長寿社会を生きるということ」

(主催：和歌山大学岸和田サテライト 共催：岸和田市)

12月23日、岸和田市立浪切ホール特別会議室にて、「住み慣れた地域で暮らし続けるために～ミドル期からのライフデザインセミナー～」を開催しました。

山本健慈学長、大西敬夫サテライト長の開会挨拶に続き、講師の前田展弘氏（ニッセイ基礎研究所准主任研究員・東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員〈写真中段〉）による講演「超高齢・長寿社会を生きるということ」をおこないました。

会場には地域の方々など80名が来場、「この催しで岸和田サテライトを初めて知った」という方が多くみられました。来場者の内訳は、女性が約6割、男性が約4割、年代層は60歳代が全体の45%でした。

講演のテーマは、「シニアロジック（老年学、高齢社会総合研究）」の最新知見に基づいた今日の超高齢・長寿社会の現状把握と、それにふさわしい高齢者の新しい生き方や地域社会づくりへの提案です。現役生活を終えたセカンド(あるいはサード)・ライフをどのように過ごすかについて、28項目からなる「後半人生生き方モデル・コース」が研究されていることや、千葉県柏市における「高齢者が地域の支え手となる地域づくり」の一環である「生きがい就労事業」の紹介等もありました。

また、エイジズム（高齢者に対する誤った通念）を含むこれまでの高齢者観を問い直し、高齢者の多様性・可能性に目を向けること、今後は介護を必要とする高齢者以上に元気な高齢者も増えるという見通し、そして、そこでは特に女性の活躍に期待が寄せられることなどを、豊富な資料に沿ってお話いただきました。

講演後、質疑応答の前には、近頃の方で意見交換です。閉会に際しては、岸和田市役所企画調整部長より挨拶がありました。

\* \* \* \* \*

岸和田サテライトでは、この講演会を契機に、超高齢・長寿社会における地域課題の把握を目的としたヒアリング調査を実施しています。市内の事業所や市民活動団体等にお話を伺い、講演会での学習内容とともに、今後のサテライト事業計画に反映させていただきます。



■岸和田だんじり祭来訪者アンケート調査を実施



だんじり祭の来訪者を対象に、岸和田市と和歌山大学観光学部の大井達雄准教授によるアンケート調査を実施しました。昨年度のNHK朝の連続ドラマ「カーネーション」経済波及効果調査に続くものです。9月15日と16日、大井ゼミの大学院生、岸和田サテライトスタッフも加わり、岸和田駅、まちづくりの館、だんじり会館、浪切ホール祭の広場を訪れたお客様を対象にアンケート調査をおこない、いろいろなお話も伺いました。



「テレビ番組を見て、実際にだんじりを見たくってツアーに申し込みました」(東京のご夫婦)、「遠方に嫁いで祭から離れてはいたけど、夫の都合がついてやっと二人で来ることができました」(熊本のご夫婦)、「だんじりもよかったです。紀州街道もきれいに保存されていてよかった」(静岡のご家族)、「大阪に単身赴任中の夫に会いに来る機会に見るのが恒例になっています」(静岡のご家族)。

皆さん、だんじり祭の印象を熱く語ってくれた方たちばかりでした。地元住民としてとてうれしく、遠方からの観光客の思いを知ることが大切だと思います。アンケート結果の概要は、岸和田市ホームページをご覧ください。(http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/danjin/anke-tokekka.html)

<写真上 見物のメインスポット「カンカン」付近。左奥の建物が岸和田サテライトのある浪切ホール。>

<写真下 岸和田駅前にて調査中の大井達雄准教授>

■韓国公州大学からの視察



11月1日、韓国国立公州大学校(KONGJU NATIONAL UNIVERSITY)の生涯学習部門の先生方、職員さんと大学院生など8名のお客様が岸和田サテライトを視察に訪れました。この視察は、2012年7月に和歌山大学が開催した「地域と大学を繋ぐコーディネーターのためのネットワーク構築事業(実践セミナー)」に、韓国公州大学大学院から参加された方のご縁で実現しています。視察は本学地域連携・生涯学習センターや和歌山県田辺市の南紀熊野サテライトなどをきめて数日に行われました。



岸和田サテライトでは、組織運営体制と各種の事業内容や特徴について地域連携コーディネーターより説明し、それに対して、サテライト受講生の修得単位が本学の課程とどのように接続しているか、地域との連携状況について等の質問がありました。その後は昼食の席を囲み、日韓の大学における生涯教育(韓国語では「平生教育」)を通じたの交流を図ることができました。

■きしわだ納まちづくりプロジェクト「燈の編」にシステム工学部が参加

11月25日、岸和田市市制施行90周年事業「歴史のまちなみを活用したきしわだ納プロジェクト」では、美しくリニューアルした岸和田城周辺を舞台に、市民参加型のさまざまなイベントが実施されました。「鶴の編」、「篝の編」、「燈の編」として多数の催しがありましたが、和歌山大学は、システム工学部の川角典弘デザイン情報学科講師・高砂正弘環境システム学科教授と大学院生・学部生が、お燈の照明設計と設置を手がけました。場所は岸和田高校正門付近。夕暮れから暗闇の水面に浮かびあがるLEDの青いあかりは、昔、燈籠とお城を結んでいた橋の再現となって、訪れた人々はその幻想的な風景をカメラに収めていました。



今回の取り組みは、岸和田サテライトでの学部開放授業「デザイン情報学入門」2010年、公開講座「第34回わだいな浪切サロン」2011年)が端緒となったものです。その経緯について、12月7日に岡山市で開催された「産学連携学会関西中・四国支部第4回研究・事例発表会」において、「サテライト事業を契機とした共同研究事例」として、岸和田サテライト地域連携コーディネーターより報告をおこないました。



<写真上 水面に映り込むあかり 下 製作風景>

■後期サテライト開講授業レポート

大学院経済学研究科「公共経営論—パブリックセクターの変革をどう進めるか—(江口雅祥講師<写真上中央>)」は、毎回の課題(ソーシャル・イノベーションの事例収集)の発表、講義、グループワーク、ディスカッションという盛りだくさんの内容です。科目履修生のうち、岸和田市や近隣自治体職員の方々は、日々の業務をより広く新しい視点で捉える機会として受講されているようです。教室では、大学院生や企業OB、行政職員OBの方々とともに、公共部門における経営的思考と改革事例についての議論が活発におこなわれています。



そのほか、「現代マーケティング論—売れる仕掛けを考えるマーケティング」、「法人課税論」、「連結会計特論」の各科目を含めて、のべ36名の社会人、大学院生が受講しました。



システム工学部教員6名が担当する学部開放授業「身の回りのメカトロニクス機器のしくみ」は、12名の社会人と学部生1名が受講しています。

第2回(10月20日)は、松井敬准教授<写真下中央>による「設計と製造・メカトロニクス機器の設計」です。設計・製造のコンピュータ支援に注目し、身近なロボットなどの解説もありました。受講生がマイコンのプログラミングを披露される場面もあり、かつての青少年たちは、次々に紹介される最新のメカトロニクス技術や開発中の製品の話題に興味津々、心躍らせています。

■産学連携コラム「背表紙—研究室の書棚から—」

サテライト事業の推進に当たっては、行政や教育機関だけでなく、地元主な産業分野からも様々なご意見を伺い、事業協力等の連携を図っています。日頃お世話になっている岸和田商工会議所発行の会報『きしわだ所報』には、岸和田サテライトからのお知らせを毎月掲載していただいています。



同じ紙面に10月より、本学の産学連携・研究支援センター河崎昌之専任教員執筆のコラムが加わりました。3月までの6回にわたって、直接あるいは間接的に「産学連携」に関連する6冊の書籍が紹介されています。

大学は、産業界や地域社会等の異なる分野との協働の場において、どのような、あるいはどのようなに、その役割を担うのでしょうか。そんなことを考えるヒントにもなる、コンパクトな読書案内です。

■経済学部同窓会「柑芦会」大阪支部・岸和田サテライト共催セミナー

11月28日、岸和田市立浪切ホールにて、経済学部同窓会の柑芦会大阪支部と岸和田サテライトの共催セミナーを開催しました。会場には、岸和田サテライト友の会会員、経済学部生、観光学部生、大学教職員など50名以上の参加がありました。



講演「テイクオフした関西国際空港(株)の挑戦」では、関西国際空港株式会社執行役員・航空営業部長の住田弘之氏より、空港島の現況、LCC(ローコストキャリア)の誘致を軸とする航空ネットワーク拡大の取り組みや、旅客・貨物需要の拡大に向けた経営戦略等について、詳細な資料に基づきお話いただきました。参加者からは、「元気の出る話でよかった」「関空への興味が増えました」等の感想が寄せられました。懇親会では、岸和田高校出身の経済学部教員や関空の航空会社に勤務する友の会会員等、共催企画にふさわしい方々のスピーチがありました。柑芦会会員からは、岸和田サテライトが大阪泉州地域での支部活動の一拠点となるよう、今後の事業協力への期待が述べられました。









# 農作業の負担低減! 和歌山大学の 「パワーアシストスーツ」

話題提供者 **八木 栄一**  
(和歌山大学システム工学部教授/産学連携・研究支援センター長)



日時:平成24年4月18日(水)午後7時~8時半  
会場:岸和田市立浪切ホール4階 研修室1

我が国の食料自給率向上のため、農産物の必要性が高まっています。特に、大型の農業機械が入りにくい山間部での高齢の農業者に役立つ支援機器の開発が望まれています。和歌山大学で開発している「パワーアシストスーツ」は、装着するだけで簡単にパワーアシストできる「動くロボット」です。ブドウなど果物の摘花・摘果・収穫作業など長時間歩行を伴う作業や、傾斜地での歩行を補助します。また18~30kgの重量物(例えば米袋やミカンなどの果物・ジャガイモ等の収穫コンテナ)を持ち上げ運搬する作業を補助するタイプも開発しています。次回「スマートフォンで変わる!生活の情報化」は裏面へ

わだいなごサロンとは  
毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールを会場とする「和歌山大学」で、和歌山大学の教員が、地域のみなさまに身近な話題をテーマにしたトークショーを行います。参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

# スマートフォンで変わる! 生活の情報化

—友達づくりから非常時の安否確認まで—

話題提供者 **塚田 晃司**  
(和歌山大学システム工学部准教授)



日時:平成24年5月16日(水)午後7時~8時半  
会場:岸和田市立浪切ホール4階 研修室1

この数年でスマートフォンが急速に普及しました。これにともない、普段の生活の情報化も進んでいます。今回は、スマートフォンと従来の携帯電話との違いや、具体的な活用事例について解説します。TwitterやFacebook、Foursquareといったソーシャル・メディアを用いた日常生活での情報交換から、3.11東日本大震災のような非常時の安否確認などの情報交換まで幅広く解説します。また、情報通信技術の災害時における活用事例と課題、大規模災害に備える最近の研究動向などについても解説します。

わだいなごサロンとは  
毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールを会場とする「和歌山大学」で、和歌山大学の教員が、地域のみなさまに身近な話題をテーマにしたトークショーを行います。参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

次回「支那するアジアの大都市—都市化による景観変化は社会に何をもちたすか—」は裏面へ

# 変容するアジアの大都市

—都市化による景観変化は社会に何をもちたすか—



話題提供者 **原 祐二**  
(和歌山大学システム工学部准教授)

日時:平成24年6月20日(水)午後7時から8時半  
会場:岸和田市立浪切ホール4階 研修室1

近年アジア各国では経済成長が続き、その都市圏も大きく変容してきました。そうしたアジア各国に関して、これまで日本では、マスコミなどを通じて、経済的な観点に限定された情報のみ伝えられることが多かったように思います。昨年のタイの洪水や、中国の社会経済問題に関して、日本企業に関係する部分は多く報じられるものの、現場の実際の土地環境や社会的背景については情報が限定されているのではないのでしょうか。タイ王国・バンコク、中国・天津、フィリピン・マニラを主な対象として、10年連続してきた現地の土地利用変化に関する研究を踏まえて、アジア各都市の現場で、どのような景観変化が生じ、人々が何を考え、それが日本とどうつながっているのか、現場写真や図表を多用しながら、臨場感を持って紹介したいと思います。

次回 名物で町おこし!~和歌山ラーメンブームをつかった「伝わる情報」とは~ 裏面へ

わだいなごサロンとは  
毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールを会場とする「和歌山大学」で、和歌山大学の教員が、地域のみなさまに身近な話題をテーマにしたトークショーを行います。参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

# 名物で町おこし!

十数年前の「ご当地ラーメンブーム」のなか、突如現れた「和歌山ラーメン」という「名物」は、どのようして「作られた」のか? 「おいしさ」そのものを伝えることができないインターネットでは、「面白い!」を連呼しても、本当の魅力を伝えることはできません。しかし「情報」というものの扱い方を正しく理解することによって、それ自体に「伝わる力」を与えることができます。力強く伝わるメッセージの構成方法を、「和歌山ラーメン」というシンボルを例にとって考えてみます。

日時:平成24年7月18日(水)午後7時から8時半  
会場:岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール



話題提供者 **床井 浩平**  
(和歌山大学システム工学部准教授)

わだいなごサロンとは  
毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールを会場とする「和歌山大学」で、和歌山大学の教員が、地域のみなさまに身近な話題をテーマにしたトークショーを行います。参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

次回 9月のサロンは裏面へ





話題提供者 **東 悦子**  
(和歌山大学観光学部准教授)

日時：平成24年9月19日(水)午後7時から8時半  
会場：岸和田市立浪切ホール 4階 研修室1

明治元年、わが国最初の契約移民153人が、さとうきびプランテーションで働くためハワイに渡航しました。その後人々は希望を捨て仕事を求め、アメリカ・カナダ・オーストラリア、ブラジルなど世界各地へと海を渡ります。全道有数の移民出身地である和歌山県の事例を中心に、初期移民がどのように海を渡ったのか、移民先でどのような生活につき、どのような生活を送ったのかを振り返ります。言葉も文化も異なる地で苦勞を重ねる中、今日の日系社会の礎を築いた先人達の努力、勤勉さ、異邦精神などから、さまざまに学びたいと考えます。過去から現在へと人々の移動の軌跡を辿り、近年労働のため来日している日系の人々の状況にも触れたいと考えます。

わだい演習サロンとは？

毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。和歌山大学の教員が、地域のみならず身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすくお話しします。申込は不要、参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

次回 10月のサロンは裏面へ

# 海を渡った先人達

和歌山県を中心として、移民・移住の軌跡を辿る

# 特別支援教育の「特別」が意味することは？

—「当たり前なこと(学習権保障)」をめざす特別支援教育—

話題提供者 **山崎 由可里**  
(和歌山大学教育学部 教授)

日時：平成24年10月17日(水)午後7時から8時半  
会場：岸和田市立浪切ホール 多目的ホール

「特別支援教育」や「特別なニーズ教育」ということばをご存じですか？ここでいう「特別」とは、「すべての児童・生徒が学ぶ権利を保障される」という「当たり前のこと」を保障するために必要な「特別な教育条件」や「特別な教材・教具」「特別な教育方法」などを指します。従来、これらは特別支援学校や特別支援学級を基本的に整備されてきました。

現在は、通常の学校も含め、学ぶ場所に限らず児童・生徒のニーズに応じてそれらを保障することが求められています。本サロンで、「当たり前のこと」を保障するための「特別」の意味について、具体的に考えてみましょう。

お問い合わせ先：和歌山大学経済サテライトオフィス  
〒596-0014 岸和田市富崎町1-1 岸和田市立浪切ホール2F  
TEL & FAX: 072-4333-0875 E-Mail: kishiwadastaff@center.wakayama-u.ac.jp

毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。和歌山大学の教員が、地域のみならず身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすくお話しします。申込は不要、参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

わだい演習サロンとは？

# ニッポンの ものづくりと中小機械工業

～都市と田舎と岸和田と～

話題提供者 **藤田 和史**  
(和歌山大学経済学部講師)

日時：平成24年12月19日(水)午後7時から8時半  
会場：岸和田市立浪切ホール1階多目的ホール

第二次世界大戦後、長い間日本経済を牽引してきたのは機械工業、「ものづくり」でした。しかしながら、円高不況、家電メーカーの経営不振や新興国への拠点流出が連日のように報じられる昨今、国内のものづくり環境は厳しさを増しています。これまで、大手企業とともにものづくりを担ってきたのは、中小の機械工業ですが、縮小し続ける経済環境の下で苦境に立たされたのはいうまでもありません。しかし、中小機械工業は、それをバネに大きな変化を遂げてきました。それら変化した中小機械工業について都市部・地方の集積地域の事例を紹介するとともに、岸和田の中小機械工業について特徴・現状を考えてみたいと思います。

わだい演習サロンとは？  
毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。和歌山大学の教員が、地域のみならず身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすくお話しします。申込は不要、参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

わだい演習サロンとは？

# 「わたし」とは何か？

～原因と結果の綱の目のゆかの自由～

話題提供者 **小関 彩子**  
(和歌山大学教育学部准教授)

日時：平成24年11月21日(水)午後7時から8時半  
会場：岸和田市立浪切ホール4階 研修室1

日常生活において、私たちは自分のことを自由だと感じています。自由とはその言葉の通り、ある行為が「自己」に「由来」しているということです。それでは、どのような「自己」とはいいのでしょうか？

世界は緊密な因果関係の綱の目によって織り成されています。その中に組み入れられた私たちもまた、私以前の様々な原因によってもたらされた結果にすぎないのでしょうか？このような原因と結果の連鎖の先に何があるといえるのでしょうか？いづれ死が訪れるのなら、現在の私の行為に何の意味があるのでしょうか？

今回のサロンでは、「自己」をキーワードに、私たちの自由や人生の意味について、皆さんで考えてみたいと思います。

わだい演習サロンとは？  
毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。和歌山大学の教員が、地域のみならず身近な研究テーマや旬のトピックスをわかりやすくお話しします。申込は不要、参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

わだい演習サロンとは？



# 社会保障と税の一体改革

～何が決まったのか、これから何を決めるのか～

話題提供者 **中島 正博**

(和歌山大学経済学部准教授)

日時:平成25年**1月16日(水)**午後**7時から8時半**

会場:岸和田市立浪切ホール**4階** 交流ホール



「社会保障と税の一体改革」。聞いたことある言葉ですね。どこかで議論されて、「2、3年後に消費税がまず8%、そのうち10%になるやっちゃん」という理解が普通だと思います。

それでいいんです。実はまだ消費税の値上げくらいしか具体的には決まっています。誰が政権を担当するかにかかわらず、この問題を避けて通るわけにはいきません。なにせ、少子高齢化はおさまるところはまだ進もうるに、日本経済そのものの先行きが不透明です。

そこで、何を決めるべきだったのか、何が決まったのか、今後何を決めていくのか、について、お話ししたいと思います。

次回浪切サロンは  
夏へ

わだいな浪切サロンとは?

毎月第3水曜日の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。和歌山大学の教員が、地域のみなさまに身近な研究テーマや初級のトピックスをわかりやすくお話しします。申込は不要、参加費は無料、どなたでも参加いただけます。

お問い合わせ先:和歌山大学岸和田サテライトオフィス  
〒596-0014 岸和田市港郷町1-1 岸和田市立浪切ホール2F  
TEL & FAX: 072-433-0875 E-Mail: kishiwadastaff@center.wakayama-u.ac.jp

# わだいな浪切サロンスペシャル

歴史と宇宙。これまでに聞きの高かったテーマの第2弾をお送りします。

申込不要  
講演無料

1 **宇宙サロン 13:00~14:30** **星屋早見会プレゼント 先着順**  
「天文あそび ~夜空を楽しむコツ教えます~」



富田 晃彦 (和歌山大学教育学部教授)

霧の上は、霞でも、どこからでも手に入る大自然。夕方の空って何色? 月って何色? 宇宙ステーションを見る話、見ると緑のいい星の話、近い星の遠い星を体験する方法など、夜空という大自然を楽しむコツをお伝えします。家族旅行の宿泊先で、子どもの手を引く帰途途中に、親子で夜空を楽しんでみませんか。宇宙を楽しむ地球人の教養として、お子さまの英才教育にもいかが。(笑)

平成25年**3月9日(土)** **13:00~17:00**

<宇宙サロン>13:00~14:30

<歴史サロン>14:40~16:10

茶話会を予定しております。



岸和田市立浪切ホール  
4階特別会議室

和歌山大学岸和田サテライトオフィス

岸和田市港郷町1-1 浪切ホール2F

Tel・Fax 072-433-0875

e-mail: kishiwadastaff@center.wakayama-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/>



2 **歴史サロン 14:40~16:10** **歴史散歩地図プレゼント**  
「天下統一 ~1585年根来・雑賀惣国VS秀吉~」

海津 一朗 (和歌山大学教育学部教授)

羽柴(豊臣)秀吉による天下統一以前、中世の紀伊半島において歴史無独立を保っていた「雑賀の国」、紀州郡内一帯は、1585年3月、徳川一掃(貝塚市)でついに秀吉との全面対決のときを迎えた。

今回は、岸和田サテライトでこの中世最大の合戦に注目し制作した歴史散歩地図「フィールドミュージアム中世日本の國境地帯」を配布して詳しく解説します。数種伝承や神話など、知られざる中世の合戦の実態に皆さんをお誘いします。

和歌山大学・岸和田市地域連携事業



## 和歌山大学 岸和田サテライト 平成24年度前期 社会人受講生募集

和歌山大学の授業を浪切ホール(4F研修室)で受講できます!  
講義内容は「募集要項」をご覧ください。

【学部開放授業(教養科目)受講]

「日本史の深層 一秀吉vs紀州惣国」 海津 一朗 教育学部教授  
土曜日 13:00~17:00  
4/14・21・28、5/12・19・26 (6回)  
学部科目の募集締め切りは **3/15(木)**

「世界の音楽 一音楽からアプローチする比較生活文化論」 米山 龍介 観光学部教授  
土曜日 13:00~17:00  
6/9・16・23・30、7/7・14 (6回)

【大学院(経済学研究科)科目等履修]

「租税法特論」 片山 直子 准教授(4月着任予定)  
水曜日 18:00~19:30  
4/11・25、5/2・9・23・30、6/6・13・20・27、7/4・11・18・25、8/1 (15回)  
大学院科目の募集締め切りは **2/29(水)**

「会社法」 清弘 正子 准教授  
土曜日 9:30~12:00  
4/14・21・28、5/12・19・26、6/2・9・16・23 (10回)

「現代社会と民事紛争 一山崎豊子原作の『白い巨塔』を中心に」 吉田 雅章 准教授  
土曜日 13:00~17:00  
4/14・21・28、5/12・19・26 (6回)

「国際租税法」 袴田 裕二 教授  
月曜日 18:00~20:30  
4/23、5/7・14・28、6/4・11・25、7/2・9・23 (10回)



和歌山大学岸和田サテライト  
平成24年後期

## 社会人受講生募集

和歌山大学の授業を浪切ホールで受講できます。  
講義内容は「募集要項」をご覧ください。

学部開放授業(教養科目)受講

「身の回りのメカトロニクス機器のしくみ」 八木 栄一 システム工学部教授  
土曜日 13:00~17:00  
10月6・20・27日/11月10・17日/12月8日  
学部科目の募集締め切りは **9/15(土)**

大学院(経済学研究科)科目等履修

「公共経営論-パブリックセクターの変革をどう進めるか」 江口 雅洋 非常勤講師  
火曜日 18:30~21:00  
10月2・9・23・30日/11月6・13・27日/12月4・11日/1月8日  
大学院科目の募集締め切りは **8/31(金)**

「法人課税論」 森江 由美子 非常勤講師  
木曜日 18:30~21:00  
10月4・11・18・25日/11月1・8・15・22・29日/12月6日

「現代マーケティング論-売れる仕組みを考えるマーケティング」 柳 到亨 准教授  
土曜日 9:00~12:00  
10月6・27日/11月10日/12月1・15・22日/1月26日/2月2日

「連結会計特論」 山田 恵一 准教授  
土曜日 13:00~17:00  
12月8・15・22日/1月12・26日/2月2日

申請手続き、問い合わせ先については 和歌山大学 岸和田サテライトまで  
〒596-0014 岸和田市港郷町1-1 浪切ホール2F  
電話・FAX: 072-433-0875 Eメール: kishiwadastaff@center.wakayama-u.ac.jp  
ホームページ: <http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/> ブログ: <http://blog.livedoor.jp/agent930/>







## D-1 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会 会員（2012年度）

|       | 職 名               | 氏 名     | 備 考             |
|-------|-------------------|---------|-----------------|
| 和歌山大学 | 学 長               | 山 本 健 慈 |                 |
|       | 理事（企画戦略・教育学生支援担当） | 堀 内 秀 雄 |                 |
|       | 理事（地域連携・研究支援担当）   | 平 田 健 正 |                 |
|       | 理事（総務・財務・施設担当）    | 盛 本 力   |                 |
|       | 理事（国際交流、男女共同参画担当） | 帯 野 久美子 |                 |
|       | 地域連携・生涯学習センター長    | 出 口 寿 久 | 企画運営委員会<br>代表委員 |
|       | 岸和田サテライト長         | 大 西 敏 夫 |                 |
|       | 地域創造支援マネージャー      | 湯 崎 真梨子 |                 |
|       | 地域創造支援機構事務長       | 瀧 口 美千代 |                 |
| 岸和田市  | 市 長               | 野 口 聖   |                 |
|       | 副市長               | 出 口 修 司 |                 |
|       | 副市長               | 井 上 幸 浩 |                 |
|       | 教育長               | 永 本 定 芳 |                 |
|       | 上下水道事業管理者         | 大 崎 康 雄 |                 |
|       | 産業振興部長            | 原 宗 久   |                 |
|       | 学校教育部長            | 岸 田 隆 博 |                 |
|       | 生涯学習部長            | 植 原 和 彦 |                 |
|       | 企画調整部長            | 西 川 照 彦 | 企画運営委員会<br>代表委員 |

D-2 和歌山大学・岸和田市地域連携推進協議会 企画運営委員会(2012年度)

|                     |       |               |
|---------------------|-------|---------------|
| 和歌山大学               |       |               |
| 生涯学習・地域連携センター長      | 出口 寿久 | (代表委員)        |
| 岸和田サテライト長           | 大西 敏夫 | 経済学部          |
| 岸和田副サテライト長          | 原 通範  | 教育学部          |
| 地域連携・生涯学習センター企画運営委員 | 藤田 武弘 | 観光学部          |
| 地域連携・生涯学習センター企画運営委員 | 床井 浩平 | システム工学部       |
| 地域連携・生涯学習センター企画運営委員 | 村田 和子 | 地域連携・生涯学習センター |
| 産学連携・研究支援センター専任教員   | 河崎 昌之 | 産学連携・研究支援センター |
| 岸和田市                |       |               |
| 企画調整部長              | 西川 照彦 | (代表委員)        |
| 産業振興部産業政策課長         | 山内 正資 |               |
| 産業振興部観光課長           | 西村 利彦 |               |
| 学校教育部学校教育課長         | 上田 和幸 |               |
| 生涯学習部生涯学習課長         | 森 幸子  |               |
| 企画調整部政策企画課長         | 梶野 省治 |               |

(事務局)

|                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| 和歌山大学社会連携課長                   | 瀧口美千代           |
| 和歌山大学岸和田サテライト<br>地域連携コーディネーター | 神谷千春 松本俊哉       |
| 岸和田市企画調整部政策企画課                | 菅本智也 仲村英二 酒井久仁子 |



## D-3 和歌山大学岸和田サテライト連携協議会 委員名簿 (2012年度)

| 職名  | 所属                  | 氏名   |
|-----|---------------------|------|
| 会長  | いずみの農業協同組合営農経済担当常務  | 谷口敏信 |
| 副会長 | 岸和田商工会議所専務理事        | 道齋芳雄 |
| 監事  | 大阪鉄工金属団地協同組合事務局長    | 岡本富和 |
| 委員  | 岸和田商工会議所企画業務部長      | 西岡數房 |
| 委員  | 和歌山大学地域連携・生涯学習センター長 | 出口寿久 |
| 委員  | 和歌山大学岸和田サテライト長      | 大西敏夫 |
| 委員  | 岸和田市教育委員会学校教育部長     | 岸田隆博 |
| 委員  | 岸和田市企画調整部長          | 西川照彦 |
| 委員  | 岸和田市企画調整部政策企画課長     | 梶野省治 |

## D-4 和歌山大学岸和田サテライト教職員（2012年度）

| 職名                | 所属      | 氏名   |
|-------------------|---------|------|
| 岸和田サテライト長         | 経済学部 教授 | 大西敏夫 |
| 岸和田副サテライト長        | 教育学部 教授 | 原通範  |
| 特任職員・地域連携コーディネーター | 社会連携課   | 神谷千春 |
| 特任職員・地域連携コーディネーター | 社会連携課   | 松本俊哉 |
| 事務補佐員             | 社会連携課   | 梅田由美 |



和歌山大学岸和田サテライト地域連携事業報告（2012年度）  
2013（平成25）年 6月発行

国立大学法人 和歌山大学 岸和田サテライト

〒596 - 0014 大阪府岸和田市港緑町 1 - 1 浪切ホール 2F

TEL&FAX : 072 - 433 - 0875

E-mail : kishiwadastaff@center.wakayama-u.ac.jp

URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/>